大学の世界展開力強化事業

東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム

国際シンポジウムⅠ

「国際医療人の育成を目指して」

～元学部留学生による歯学教育の国際評価～

International Symposium　I

"Educating International Dental Professionals"
–Experiences of TMDU Alumni from Asian Countries–

2013 年 2 月 13 日

東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

目次

ページ

1. シンポジウムの写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2. シンポジウムパンフレット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

3. 講演内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4. 発表スライド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

5. 講師の経歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95

1. シンポジウムの写真

「国際医療人の育成を目指して」
東京医科歯科大学
Tokyo Medical and Dental University

Zanjebil
Lily

Haslina

大学の世界展開力強化事業「東南アジア医療･歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」

国際シンポジウム「国際医療人の育成を目指して」

～元学部留学生による歯学教育の国際評価～

"Educating International Dental Professionals"

–Experiences of TMDU Alumni from Asian Countries–

開催趣旨：本シンポジウムでは、大学の世界展開力強化事業「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」の一環として、現在、母国で歯科医師として最前線で活躍されている東南アジアからの元留学生を講師としてお迎えし、本学で６年間学んだ学部教育についてご講演いただきます。
また東南アジアにおける歯科医療ネットワークの構築に果たす国際汎用性の高い歯学教育のあり方、本学との更なる協働、連携のための取り組みなどについてディスカッションを行いたいと考えております。
本シンポジウム開催趣旨に関心をお持ちの多数の皆様のご参加を期待しております。

日 時：　2013年2月13日(水) 14:00～17:00
会 場：　東京医科歯科大学歯学部第一講義室（7号館1階）
Date:　*Feb 13, 2013 (Wed), 14:00~17:00*
Venue:　*1st Lecture Hall, Building No 7, 1st floor, Faculty of Dentistry, TMDU*

プログラム　*Programs*

1. 開会の辞　*Opening Remarks*
   田上順次歯学部長　*Prof. Junji TAGAMI (Dean, TMDU)*

2. ご挨拶　*Greetings*
   大山喬史学長　*Prof. Takashi OHYAMA (President, TMDU)*

3. 講演「東京医科歯科大学の教育で私が得たもの」　*"What I learned from TMDU"*
   1. Dr. Lily Azura Binti Shoaib　(2001年卒業)
   2. Dr. Azura Binti Abdullah　(2001年卒業)
   3. Dr. Nosizana Binti Mohd Salleh　(2002年卒業)
   4. Dr. Haslina Binti Rani　(2003年卒業)
   5. Dr. Chu Wai Weng　(2004年卒業)
   6. Dr. Zanjebil Alsagoff　(2005年卒業)

4. パネルディスカッション　*Panel Discussion*
   「国際医療人の育成を目指して」　*"Educating International Dental Professionals"*

5. 閉会の辞　*Closing Remarks*
   荒木孝二歯学部教育委員会 委員長
   Prof. Kouji ARAKI (Chair, Education Committee, Faculty of Dentistry, TMDU)

連絡先：国際交流課　柴田、杜（内線 4941）

３．講演内容

国際シンポジウム

「国際医療人の育成を目指して　～元学部留学生による歯学教育の国際評価～」

日時　2013年2月13日（水）14:00～17:00

場所　東京医科歯科大学歯学部第一講義室（7号館1階）

（川口）　国際シンポジウム「国際医療人の育成を目指して　～元学部留学生による歯学教育の国際評価～」を始めたいと思います。本日司会を担当いたします川口です。

（森尾）　森尾です。よろしくお願いいたします。

（川口）　最初に、田上順次歯学部長からごあいさつをいただきたいと思います。

1. 開会の辞

田上　順次（東京医科歯科大学　歯学部長）

皆さん、こんにちは。今日は東京医科歯科大学医学部の卒業生であるマレーシアの皆さんに6人来ていただきました。まずは本学へようこそお帰りなさいと申し上げたいと思います。今日は寒い冬の日ですが、昔を思い出して、日本の寒い冬の天気も楽しんでもらっているかと思います。

今日ここに皆さんをお迎えできたことをとてもうれしく思います。今日来ていただいた皆さんは、2001～2005年にかけて卒業された皆さんですが、その後、国の厚生省やマラヤ大学、あるいは地域医療の場で教育、研究、臨床に活躍されていると聞いて、大変うれしく思うとともに、とても誇りに思います。大学にとっては一人一人の卒業生は皆さん大切な宝物であり、財産でもあります。ましてや日本の外、異国の地、皆さんにとっては自分の国ですが、そういう所で活躍する卒業生は、その活動や業績によって、同時に医科歯科大学歯学部の名前、ステータスを高めることにもとても貢献してくださっていて、いつもありがたく思っています。

今日のプログラムは、文部科学省による大学の世界展開力強化事業「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」の一環として企画されて

います。少し長い名前ですが、日本の大学も特にこれからどんどん国際人を育てようというところです。なお、この活動は今年から5年間の予定で文科省から予算を頂くことになっています。また、学内的には大山学長からもこのプログラムには絶大なる支援をいただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

特に最近では、日本の中でも医学教育や歯学教育の国際化ということが強く言われるようになってきました。医療あるいは医学教育、歯学教育というのは、かなり国の行政に影響されることが多いです。国の方針がありますので、国によってかなり違うのですが、随分世界が小さくなってきました。医療、特に材料などについてはどんどん国境もなくなってきているということで、国際的に活躍する医療人・歯科医療人、医科の人間も歯科の人間も国際的に活躍、活動する場が今後増えてくる、既に増えつつあるということで、教育の標準化もいわれるようになってきたわけです。

今日は、日本の本学で教育を受けて、そして今、母国で活動されている皆さんから、それぞれの立場から講演をしていただきます。皆さん愛校心も高いと思いますが、そういう人がいろいろな批判や意見を言ってくださるのはとても貴重な機会だと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。また、卒業直後とは違って、少し仕事をされてからですので、またいろいろな問題も見えてきているかもしれません。大変楽しみにしています。

今日たくさんお集まりいただきました学内の教員や学生、さらには各国の留学生の皆さんが集まってくれていますが、皆さん全員にとって、こうしたディスカッションは非常に役に立つものではないかと思っております。それぞれ皆さん、国に帰ってからも歯科医療あるいは歯科医学教育・研究の中でやっていくわけですが、その将来を考える上でも、また本学の教育をさらに良くしていくためにも、今日は有意義な会になることを期待しております。

この企画にとても時間をかけて努力していただきました川口教授、森尾教授、国際交流センターの皆さん、さらにはたくさんの関連の方々、いろいろ大変な努力をしていただいて、今日のプログラムを開催することができました。どうかこのプログラムを有意義なプログラムにしていただきますよう祈念して、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします（拍手）。

（川口）　田上先生、ありがとうございました。次に、大山喬史学長よりごあいさつをいただきたいと思います。

2. ご挨拶

大山　喬史（東京医科歯科大学　学長）

皆さん、こんにちは。ようこそ日本に来てくださいました。私はしばらくマレーシアに行っておらず、特に最近は忙しいのでそういう機会がないのですが、元気な皆さんを見て大変うれしく思います。先ほど田上先生からもお話がありましたように、10 名の卒業生が 2001 年から 2005 年にわたって卒業され、現在は母国であるマレーシアで、医療、教育、研究の最前線で頑張っている様子を知って、私も大変うれしく思っております。当時はマレーシアには一つしか歯学部がなく、1 学年 54～55 人が卒業するという状況でした。そのため、マレーシアは非常に歯科医師が少なかったのですが、現在では既に 12 の大学が歯学教育を展開しています。そういう意味では、日本のアンダーグラデュエートに入ってこなくても、マレーシアでも自力で歯科医師を養成する機関が十分整ったのではないかと思います。

ところで、今日来ている 6 人の元留学生の人たちは、マラヤ大学の中で 2 年間、日本語で高校教育を勉強し、試験に通って日本に来た優秀な学生さんですが、日本に来られたからといって必ずしも日本語が上手に使いこなせたわけではないと思います。そういう中で、教養教育から専門課程を日本語でずっと勉強してこられたということでは、大変とまどうことも多かったと思いますし、幾多の苦い経験をされてきた。苦いというと、分かりますよね。嫌な思いをする経験もたくさんあったのではないかと思います。そのように、もしかしたらうちの大学の教育上の欠点もあるかもしれないので、ぜひ皆さんから、「ここはこういう教育がいいのではないか」という提言をしていただきたいと思います。

今は医歯学融合教育ということで、皆さんが歯学部で 6 年間教育を受けてきたカリキュラムとは少し変わってきました。その医歯学融合教育も、できれば世界で共有できるような歯学教育の仕組み作りを目指しておりますので、6 人の先生方がマラヤ大学に帰って、マラヤ大学の歯学教育は英国の影響を非常に受けているわけですよね。そういう意味では、ぜひマラヤ大学あるいはマレーシアでの歯学教育をうちの大学と比べたときに、うちの大学の教育、東京医科歯科大学の教育はこうあったらいいのではないかという提言をぜひしていただければ、医歯学融合教育も最終的には世界で共有できるようなカリキュラムを作り上げることを目的としておりますので、大変参考になるのではないかと思います。皆さ

んのアドバイスが医歯学融合教育のブラッシュアップにつながると思っていますので、言いたいことを何でも言っていただいて結構です。

先ほど田上先生から説明がありましたように、世界展開力強化事業ということで、私たちが進めてきた世界とのお付き合いの中、特に東南アジアの国々との付き合いの実績が評価されて、年間6000万円弱のお金を国から頂くことができました。これは5年間続くわけですので、先生方とさらにブロードなコミュニケーションを継続して、情報交換をしたり、将来の人材育成、アジア圏の人材育成に適切な教育を一緒に構築していきたいと思っております。

ということは、皆さんがマレーシアの大学と東京医科歯科大学、日本との懸け橋（ブリッジ）になるのです。そういう意味では、大学が皆さんに寄せる期待はすごく大きいと思います。といって緊張することはなくて、今は次の自分たちのプレゼンのことで緊張しすぎているのではないかと思いますが、言いたいことを言ってほしいと思います。また、プレゼンの中でお話しできないことは、皆さんが日本に滞在している間に川口先生や森尾先生に伝えていただければ結構なので、プレゼンですべてを語ろうとすると、恐らく精神的にtoo much になってしまうので、少しリラックスして、頭に浮かんでいる言葉を日本語で僕らにアドバイスしてくれればいいですから、もう少しリラックスした感じで。笑いも何となく遠慮がちで、普段はもっと大きく笑うでしょう（笑）。

それでは、今日はうちの大学の先生方、それからほかの国からうちに来て勉強している先生方にも非常に参考になるお話が聞けるのではないかと思っています。あまり「参考になる、参考になる」と言うと余計プレッシャーをかけてしまうから、あまり参考にならない話も含めて聞かせてくれればいいかと思います。このプレゼンも含めて日本での滞在をぜひエンジョイしてください。あまり緊張しないで、マレーシア語で言うとテリマカシー。よろしくお願いいたします（拍手）。

（川口）　大山先生、ありがとうございました。ここで記念撮影をしたいと思います。元留学生と学長、歯学部長の皆さんは、前へお願いします。観客の先生方、少々お待ちください。

3.講演「東京医科歯科大学の教育で私が得たもの（What I learned from TMDU）」

（川口）　それでは、元留学生の先生方に講演をしていただきたいと思います。最初の演者は、Azura Binti Abdullah 先生で、2001 年の卒業です。彼女は現在、Dental Officer at Ministry of Health ということで、マレーシアの保健省の歯科医師としてご活躍です。Azura 先生のタイトルは、“TMDU & My Life”ということでお話をいただきます。では、トップバッターです。よろしくお願いします（拍手）。

講演1「TMDU & My Life」

Dr. Azura Binti Abdullah

皆さん、こんにちは。大山学長と田上歯学部長、川口先生と森尾先生と皆さん、どうもこんにちは。このプログラムに誘っていただいて本当にありがとうございます。今回発表させていただくのですが、下手な日本語でごめんなさい。これから“TMDU & My Life”というタイトルでお話ししたいと思います。

マレーシアにはみんな行ったことはありますか。

（フロア）　あります。

#4

（Abdullah）　ここは日本で、マレーシアはこの辺で、私はクアラルンプールに住んでいます。マレーシアはいろいろ興味深い場所があります。特にクアラルンプール・タワー、ツインタワー、KL ツインタワー、プトラジャヤアドミニストレイティブ・オフィス、キャメロン・ハイランドの茶畑にランカウイタワーの七つが挙げられます。

#5

私は結婚して 12 歳、10 歳、7 歳の男の子と 5 歳と 3 歳の女の子の計 5 人の母親です。私は医科歯科大学を 2001 年に卒業後、以来マレーシア保健省で 12 年間勤務しています。現在私はマラヤ大学の公衆衛生学の修士コースに 2009 年から所属して 4 年目です。

#6

ではマレーシア保健省の口腔衛生の取り組みについて、簡単に説明したいと思います。

#7

マレーシアの他国と比較しての歯科医師の人口に対する比率は、歯科医師 1 人に対し 7936 人の割合です。公立が 1858 人、私立が 1709 人と前者の歯科医師のほうが多いです。マレーシアの口腔保健課は、2020 年には歯科医師 1 人あたり 4000 人の割合を達成することを見込んでいます。

#8

口腔顎顔面外科、矯正、歯周、小児歯科、口腔病理・オーラルメディシン、修復歯科、歯科衛生、法歯学を含む 8 つの分野の専門医制度があります。2010 年には 130 人の歯科研修医が卒後研修の連邦奨学金に申し込み、41%にあたる 53 人が奨学金を得ています。34 人の歯科研修医が国内の卒後研修を受けて、19 人が国外の大学に行きました。これには 3 人の専門医を目指したものが含まれます。

#9

こちらは 2010 年のマレーシアにおける一次口腔ケアです。小学生がその割合の多くを占め、26.6%が中学生、約 17%が成人、出産前の母親が 2.4% 、9.5%が未就学児そして最も少ない数値である 2%の高齢者が、マレーシア保健省の一次口腔ケアによりカバーされています。

#10

マレーシアの水道水フッ化物添加は 1972 年から始まっています。公共の水への最適レベルである 0.4 から 0.6ppm のフッ化物添加は、全人口の約 76%をカバーしています。2010 年までに全 456 施設中 281 にあたる 61%の浄水場でフッ化物添加装置が設置されています。

#12

これがう蝕罹患率とう蝕経験の割合です。6 歳から,12,16 歳、15-19 歳まで、そして増加傾向が見られる 35-44 歳と 65-74 歳のデータです。う蝕の罹患率は 12 歳、16 歳で減

少しています。なぜなら就学児童プログラムでカバーしているからです。学校を出ると罹患率は増加します。これは彼らが自身の歯に注意を払わなくなることに起因しています。私たちはもっと成人や青少年に焦点を定める必要があります。

#13

マレーシアの口腔健康プログラムについては、マレーシア保健省歯科保健課（the Oral Health Division in Ministry of Health Malaysia.）のウェブサイトより詳しく知ることができます。

#14

さて、東京医科歯科大学に入る前の私についてです。

#15

日本に行く前、1993 年から 95 年の間、私たちはマラヤ大学の日本留学生特別コースに 2 年間通いました。ここでは日本語を学ぶことはもちろん、基礎科学を日本語で履修しました。

#16, 17, 18, 19, 20

卒業後、1995 年に私たちは日本に渡りました。まずは東京医科歯科大学教養部で、私たちの毎日が始まりました。留学生の友人たちと増田先生のお宅にお邪魔しました。ごらんいただけるように、これは大学の中です。

#21

国府台キャンパスにあるインターナショナルハウスでの生活です。日本人の友人が来ることもあれば、友人と集まって一緒に料理をすることもできました。

#22

これが学部で私の所属したグループ 1 です。

#23

学部の私の友人たちです。

#24

1999 年に結婚しました。

#25

2000 年に子宮内胎児死亡で流産を経験しました。その時の血液検査で、私は本態性血小板血症であると診断されました。私の赤ちゃんは妊娠 31 週で死亡が確認されました。わずか 637 グラムの男の子でした。そして山梨県塩山イスラム霊園に埋葬されました。

#26

1999 年に同級生たちと合宿研修がありました。

#27

友人や先生方との飲み会もありました。

#28

卒業式の前に、特別に 2001 年の東京医科歯科大学留学生記念証授与がありました。この写真は鈴木学長にいただいたものです。

#29

2001 年 3 月 23 日に私たちは卒業しました。49 期生です。

#30

これは私が本当に卒業したという証明です。

#31

私の両親も卒業式に来てくれました。

#32

これは卒業式後の第 49 期生謝恩会です。

#33

渋谷にあるマレーシア料理のお店で食事をして、友達とアイススケートに行きました。

#34

私にはフォスターマザーがいました。今も一緒にいます。

#35

日本でも私たちの祝日があって、これを利用してスキーに行き、摂氏マイナス 14 度の寒さも経験しました。

#36

2001 年に私たちはマレーシアに戻りました。

#37，38

こちらはマレーシア人卒業生で、2001 年卒から 2009 年卒の 10 名です。

#39

マレーシアに戻ったとき、2001 年卒の卒業アルバムが届きました。

#40

アルバムの中身です。

#41，42

10 年後、同級生が集まりました。この最初の同窓会は 2011 年の 10 月でしたが、東京医科歯科大学で行われたこのイベントに、残念ながら私たちは参加できませんでした。でも先週の日曜日に、もう一度みんなで会うことができました。これは私たちの 2 回目の同窓会です。

#43，44

卒業後、1 年目のマレーシア保健省歯科研修医として経験を積みました。FYDO（First Year Dental Officer）と呼ばれるこのプログラムは歯周病専門医と一緒に 2 ヶ月、矯正専門医と一緒に 2 ヶ月、そしてプライマリーケア分野で 2 ヶ月働く期間を含んでいます。その後、ペリオ、歯科矯正、プライマリーケアでの研修を終えた後に、口腔外科で研修し、さらに

他の小児歯科で 2 ヶ月研修があります。入学後、FYDO ログブックを完全に埋めることが求められます。これによりフィールドスーパーバイザー、スペシャリストまたはそれぞれの部の HOD に認証されます。私たちは、3 年間でこの勤務を終えることを保健省により義務付けられています。

私が勤務 1 年目でぶつかった困難はやはり言葉の壁でした。私は日本語で学んだからです。試験も授業も教科書もすべて日本語でしたから。英語でレポートを書くのにも苦戦しました。また、時間外の歯科救急処置を上手くさばくことも大変で、マレーシアでは自動車事故などでの縫合や包帯巻きなどを含む緊急呼びだしに応じるための診療時間外勤務もありました。日本ではアマルガムを使わなかったので、アマルガム充填でもとまどいました。それから抜歯、特に下顎孔伝達麻酔を使わなければいけない抜歯は苦労しました。また難抜歯に関しても経験の浅さを感じました。

#45

これが保健省での私の経験です。2001 年から 2002 年まで FYDO で 1 年、プライマリーケアクリニックで 4 年、また小児歯科で 2 年仕事をし、そして最後に、修士課程を再び始める前にプライマリーケアクリニックを 3 年経験しました。

#46

これが 2009 年卒の Husna Hassan から改正された制度です。保健省が制度を見直し、彼女は私達と違い、1 年間の pre-FYDO を行って、それから 1 年間の FYDO に行くようになりました。pre-FYDO の機会を与えられたことにより、彼女は歯科学生の最終年のプログラムを修了することが求められます。例えば 10 の修復処置、10 の根管治療などのケースといった形です。これは歯科大の最終年に似ていて、歯周病専門医や口腔外科での研修もあります。その後、pre-FYDO が終わったら、1 年の私達と同じ FYDO のプログラムに進みます。つまり 3 年間の義務である勤務は、pre-FYDO が終わってからスタートすることになります。

#47

私は自身の成長を感じました。最初の成長です。というのも、歯科大学では最終学年の 1 年間しか患者を診なかったからです。マレーシアでは監督下で 3 年生から患者を診始める

ので、より多くの臨床経験を得ることができます。歯科の救急処置に関しても経験不足でした。マレーシアでは患部洗浄、縫合、歯科救急処置のマネージメントに関しての実習があります。外来の患者の診断、処置、治療計画に関しても経験が不足していました。私達にはもっと外来患者の振り分けや、診断に関しての科での経験が必要でした。なぜならマレーシアでは外来患者が毎日来て、診断、治療計画の立案が個々の患者に必要で、特に主訴に応じた正確な処置が求められているからです。

#48

4 番目ですが、抜歯処置、特に ID ブロックを使った処置の経験が足りませんでした。私たちが最終年に経験したのは動いている歯の抜歯だけでした。もっといろいろな抜歯のケースを経験することが必要ではないかと私は思います。アマルガムのような歯科材料は使うことができませんでしたが､マレーシアでは臼歯部にまだアマルガムを使用しています。実際の患者には使わないとしても、アマルガムの実習があれば大変助かると思います。

#49, 50

さて、衛生学の修士への旅路です。マラヤ大学のこのプログラムは 4 年制です。1 年目と 2 年目に私達は社会予防医学を学ぶ必要があります。これには、生物統計学、医療経済学、医療政策とリーダーシップ、法律と医療、率と割合の分析、人材、医療管理が含まれます。歯科のクラスでは口腔健康増進、歯科倫理、批評、歯科公衆衛生管理、口腔病変の疫学、予防、一次ヘルスケア、行動科学があります。

3 年目には様々な政府と非政府の機関で働くことを求められ、報告書を提出します。

最終年は保健省の州と地域レベルで働き、管理方法を学んだり、地域プロジェクトの立案を発展させたりします。

#51

2010 年 5 月、川口陽子教授とランチを共にする機会がありました。先生は、私たちの修士２年の外部試験官プログラムのコースに出席されました。

#52

2011 年の 10 月、シンガポールで開かれた第 25 回 IADR-SEA scientific conference で森尾教授と鶴田先生にお会いする機会がありました。そこで、私は、私の学位論文のテーマである「13-14 歳の学童の不正咬合におけるクオリティオブライフの影響」を発表しました。

#53

特に東京医科歯科大学の先生方、助手、支援スタッフ、それに私の友人と 2001 年卒の仲間にお礼を申し上げたく思います。

#54

どうもありがとうございました。

（川口） Azura 先生、どうもありがとうございました。後で皆さん終わってからディスカッションしたいと思いますので、次に移りたいと思います。次のプレゼンターは Nosizana 先生で、Nosizana 先生は今、マラヤ大学の補綴科の講師として働いていらっしゃいます。2002 年に学部を卒業した後、大山先生の補綴科の方の大学院も修了されています。Nosizana 先生、それから次の Lily 先生もマラヤ大学の小児歯科の講師で、二人がマラヤ大学のカリキュラムについて、Nosizana 先生が学部教育、Lily 先生が卒後教育（大学院教育）について、大学の紹介をしてお話しくださいます。では、最初に Nosizana 先生、お願いいたします。

講演2「Education system in Malaysia」

Dr. Nosizana Binti Mohd Salleh

皆さんこんにちは、Nosizana Mohammed Salleh と申します。私は 2002 年に東京医科歯科大学を卒業し、その後すぐに東京医科歯科大学の大学院生になって、2006 年に修了しました。2006 年から今日までマラヤ大学の Department of Prosthetic Dentistry の講師として勤めています。マラヤ大学でインプラントや咀嚼機能、または顎関節美容等の高齢者歯科の研究をやっています。ごめんなさい、2001 年ではなくて 2002 年、12 年から 9

年からですね。マレーシアにある私立病院の結構有名なところなのですが、アルバイトを始めました。そこでCosmetic Dentistryをやっています。ベニア等をやっています。これからマレーシアの教育システムの話をします。
（以下スライド併用）

#3
歯科医師になる前ですが、これはマレーシアの教育のフローチャートです。小学校に入る前にフリースクールに入ります。国立の場合は5歳から1年間、私立の場合は3歳から始めることができます。小学校は6年間、小学校6年生のときに試験があって、試験に合格すると中学校に入ることができます。中学校は3年間で、その後高校が2年間。高校2年のときに試験があって、その試験の成績から次の進路が決まります。高校の後に大学に入る前に Post-secondary education または University entrance preparatory course か Diploma courseを1年か2年してから大学に入ることができます。マラヤ大学に入るには、入学試験はないのですが、普通のファイナル試験のときに3.75以上のGPAを取らないと歯学部に入れません。

#4-11
ここにリストがあるのは、マレーシアにあるデンタルスクールです。
マレーシアには二つのタイプの歯科大学があります。ひとつは国立で、もうひとつが私立です。

クアラルンプールにある国立の大学は3つあります。マラヤ大学、マレーシア国立大学そしてマレーシア・イスラーム科学大学です。パハンにはマレーシア国際イスラム大学があります。ケランタンにはマレーシア科学大学が、セランゴールにはマレーシア・マラ工科大学があります。というわけで全部で6つあります。

私立歯科大学です。こちらに 4 つだけ挙げました。ペナンには Penang International Dental College（ペナン国際歯科大学）があります。ケダにエンスト大学があります。セランゴールにはセギ・ユニバーシティ大学があり、クアラルンプールには国際医学大学があります。

#5

さて、これから私たちのマラヤ大学の歴史についてお話しします。これが大学の地図です。歯学部や技術系の学部だけではなく、機械、科学、教育の各学部があります。いろいろな施設、学部、そしてスポーツセンターがあります。私たちは大きな街を作るために努力していて、将来的には大学は金銭的独立を果たすでしょう。現在歯科、医科両方の私立病院があります。将来はショッピングモール、ホテル、その他のビジネスが大学内にできることでしょう。

#6

マラヤ大学はマレーシアで最も歴史のある大学で、1905 年に設立されたキングエドワード 7 世医科大学と 1928 年にできたラッフルズカレッジが統合する形で 1949 年にシンガポールに設立されました。これらの 2 大学はもともとはイギリスから来ました。その後マラヤ大学は 1962 年 1 月 1 日にクアラルンプールに移動しました。最初の学長は Tunku Abdul Rahman Putra Al-Haj で、マレーシアの最初の総理大臣だった人です。最初の副学長は Oppenheim 教授で、彼は世界的に著名な数学者です。現在、ペラクのスルタンである殿下が学長に就任されています。また Ghauth Jasmon が 10 代目の副学長に任命されています。

#8

歯学部は 1971 年に設立しました。1997 年 12 月、イギリスの GDC(the General Dental Council)が本学の歯科学位を承認した時に、歯学部はその高い教育、研究、プロフェッショナリズムを称えられ、表彰されています。イギリス GDC の会長である Margaret Seward 氏は、「この機関は、高い教育レベルを保ち、それはイギリスと同等レベルである」と述べています。

#9

私たちの目標は歯科医療、教育、研究の中心となり、歯科医学の教育と研究の発展の力となることです。

私たちの任務は高いレベルの教育と研究を提供する一流の大学人となり、総合的なケアができる歯科医療人を育てることです。

#10

これが歯学部にある施設です。二つの歯科施設があって、キャンパス内のそれぞれ別な場所にあります。こちらは古いほうの建物です。これが病院、総合病院、そしてこれがキャンパスの内部で 1，2 年生のための施設です。1 年生と 2 年生の歯学部学生はここで模擬実習とオーラルバイオロジーの実習をやっています。ここが図書館ですね。図書館はこの中にあります。新しい建物で、病院と新しい建物の距離は結構遠いので、なかなか図書館を使う機会も少ないです。これが講堂で、こちらが病院受付です。

#11

学生のための総合病院です。　患者さんを診るのは 3 年生から 5 年生まで 3 年間で、それで総合病院も三つあります。その中に 40～50 台のデンタルチェアがあります。
トータルでおよそ 150 ものデンタルチェアが総合病院にはあります。これが学生のラボです。CPR のトレーニングもします。コンピューターラボもあります。

#12

現在、私たちは e ラーニングを行っていて、通常の講義は学内用ですが、オンラインで共有したりもします。また私たちは、e ラーニングを通じて学生と双方向でコミュニケーションできます。ときどき小テストもします。

#13

さて、2010 年にスタートした私たちの新しい歯科学生カリキュラムをご紹介したいと思います。これは以前と同じく 5 年制度で 9 月から始まります。新しい制度では、総合的なカリキュラムと総合歯科臨床（ジェネラルクリニカルプラクティス）を取り入れています。以前の制度ではリクワイアメントを満たすために学生は患者を診ていたわけですが、この新しいシステムでは患者を総合的に診なくてはいけません。

#14

これは 1，2 年生のシラバスです。3 年生から最終年まで午前、午後と臨床に従事します。1 年に二つのセッションがあります。

#15

現在、総合診療(GCP)は 3 年生のみに適応されています。なぜなら 4 年生と 5 年生はまだ古いカリキュラムに従っているからです。

総合診療は 1 週間に 5-6 セッションあります。これは総合診療のみです。残りは口腔外科診療とオーラルメディシンクリニックがあります。総合診療では、それぞれの診療科から一人の講師がクリニックのティーチングに参加します。保存科、補綴科、ペリオ、地域歯科、一般歯科から診療室に講師を送ります。講師は総合診療科を監督する知識がなければいけません。現在はまだ、学部は新しいカリキュラムを監督するためにスタッフを教育している段階です。

#16

これは 4 年生と 5 年生用です。

#17

これはどのように学生を評価するかを示しています。総合的なカリキュラムでは学生は 4 つの試験を受ける必要があります。これは多肢選択式筆記テスト(MCQ)、改良小論文テスト(MEQ)、短答式テスト(SAQ)、客観的実地・臨床能力試験(OSPE)です。すべての教科で各科から試験問題がひとつのテストで出され、そのうちの 20%は総合試験です。70 点以上の学生は、学部に任命された委員会により口頭試問を受けます。委員会が学生の成果を合格と認めたら、成績が A プラスに上がります。それから、45 点から 49 点の学生も口頭試問に呼ばれます。もし良い成績を収めたら、彼らの点は 50 点に上がります。

#18

点数と評価の組み合わせです。

#19

歯科の学位の試験ですが、1 年生の時にまず最初の専門試験があります。続いて 2 年目の試験、3 年目の試験、そして 4 年生でパート 1、最後の年にパート 2 の試験を受けます。

#20

それに加えて、外部の試験官のシステムがあります。それぞれの学年の最終試験に国外の他大学から教授を試験官として来てもらうというものです。こちらが歯科医師の試験のために来てもらった教授で、こちらが補綴の試験のために来てもらった教授です。

#21, 22

学生のアクティビティーです。毎年、デンタルナイト・ディナーがあります。講師が学生と歌っています。デンタルナイト・ディナーのスーパーバイザー、アドバイザーで、学生に賞を授与します。

#23

学生の学術発表会もあります。これは、日本、東京医科歯科大学での私の写真です。私たちの大学でも歯科学生の短期の研究プロジェクトがあって、レポートを書いて、それをこの発表会で発表しなければなりません。したがって毎年こういったプロジェクトがあることになります。

#24

学生たちは学外に出て、郊外で歯科検診や歯科教室などをしています。ブラッシング指導もやっています。

#25

そして最終学年の生徒は、外の病院へ行って研修しなければいけないのです。1 週間ぐらい。

#26

これが私の努力の成果です。これは模擬実習のためのハンドブック。あとはアルバイトをしているところの病院から見える KLCC の KL タワー。それと私の子供です。

#27

大学院生のときの写真です。笛木先生がスーパーバイザーになっていました。

#28

大山先生 最後のマレーシア訪問です。

#29

こちらが俣木教授です。歯科教育のために来てくださいました。

#30

これは私たちです。

#31

そして私は、毎年研究プロジェクトのために日本に来ています。私の話はこれで終わりです。

（川口） Nosizana 先生、ありがとうございました（拍手）。では、続きまして、“Postgraduate Study: A Comparison”ということで、マラヤ大学の小児歯科のコースの Lily 先生にお話を伺います。

講演3「Postgraduate Study : A Comparison」

Dr. Lily Azura Binti Shoaib

#33

Lily と申します。私は 2001 年卒で、その後すぐ歯科医師としてマレーシアの保健省に勤めていました。それで、2005 年からマラヤ大学の歯学部にチューターとして勤めて、そしてすぐに Master in Clinical Dentistry、エジンバラの方に進学しに行きました。それで 2008 年、マスタープログラムから卒業して、小児歯科、Children Dentistry & Orthodontic Department に講師として今も勤めています。私の研究の興味は、カリオロジーや特殊なケ

アが必要な小児の管理、それから歯科教育の研究です。

#34

これがマラヤ大学の門です。こちらが私たちの学部長です。 Nosizana 先生が少しマラヤ大学の歴史を話しましたので、これはスキップします。

#35

マラヤ大学の大学院生の勉強は、ほかの人と国際のキャンディデートにプロファイルをオファーします。したがっていろいろな歯科の分野をカバーしなければなりません。口腔外科、小児歯科、補綴科、保存系、いろいろあります。それでこのクリニカルプログラムはスペシャリスト（専門医）になるようにデザインをしています。

#36

地域歯科の修士コースが 1994 年に始まり、続いて 1999 年に臨床歯科の修士コースが設けられました。2000 年には矯正歯科と口腔外科の修士コースができました。東京医科歯科大学と比較すると、まだ歴史がそんなに長くない。大学院生としての進路は、最初は Basic Medical Science (BMS) Course Part 1 に合格してから、コースに入って合格してから Master in Clinical Dentistry に進学できます。あるいは Master in Orthodontics. Royal College of Surgeons England の試験（MFDS・MJDF）パート 1 または Royal Australasian College of Dental Surgeons の試験（FRACDS）パート 1 に合格した者は、BMS のパート 1 の合格と相当ですので、BMS パート 1 は受ける必要がありません。それで彼らは進学して、4 年後に臨床歯科医修士(Master in Clinical Dentistry)を取得します。このコースの他に、サイエンスの修士課程(Master of Science)もありますが、これは研究のみのものです。しかし、マレーシアでスペシャリストになるためには、70% 以上の臨床トレーニングと 30%の研究が必要なこの 4 年間のプログラムと同等のものが必要です。したがってこの Master in Clinical Dentistry は 70%の臨床トレーニングと 30%の研究のみです。

#38

マレーシアには国立大学があります。PhD のコース、マスターのコースがあるのはマラヤ

大学と University Kebangsaan Malaysia。ハスリナさんは University Kebangsaan Malaysia から来ています。それにケランタンのマレーシア・マラ工科大学、マレーシア科学大学があります。したがって、たった 4 つの大学で、これらはみな研究大学です。研究大学はマレーシア政府から資金をもらい、他大学と比較して、研究により重点を置くことになります。その結果、これら 4 大学は研究面でマレーシアをリードする大学となっています。

#39

私たちの歯学部は、イングランド王立外科医師会とオーストラリア王立歯科医師会の認証評価を受けています。

#40

私たちの大学には、4 年間の卒後研修プログラムがあります。最初の年は東京医科歯科大学に近いと思うのですが、バイオ統計学、それぞれの分野に行く前の臨床前実習、それに保存修復テクニックがあります。その後 2 年目 3 年目で臨床、研究があり、4 年目に地元または海外への派遣または小児歯科、口腔外科、矯正での研修があります。時にはコース修了前に、受講者はより経験を積むために海外に派遣されます。そして得たものをマレーシアに持ちかえってくれるわけです。現在のところ、海外派遣の構成は、60% 以上が臨床目的で 40%が研究です。

#41

これがマレーシアの入学資格です。成績優秀な学士号と同等な歯科もしくは医科の学位が必要なわけです。CGPA のスコアが 3 より高くなければなりません。これは修士コースの入学の場合です。これは、博士号また修士号プログラムの委員会に認められた大学でなければなりません。そして海外の応募者は全員、英語または TOEFL を 6 以上の成績でパスしなければいけません。

#42

マレーシアで歯科のスペシャリストになるために基本的な歯科学位が必要です。学位はマレーシア歯科評議会で承認、登録され、最新の年次臨床許可書とマレーシア歯科評議会で認められた卒後研修資格を保持していなければなりません。もしスペシャリストになるために海外に行っていた人が帰ってきたら、働いて診療しなければスペシャリストとは認識

されません。とても大変なプロセスと言えます。

#43

マラヤ大学の歯科リサーチセンターでは 4 つのメインのラボがあり、口腔がん研究と口腔がん研究グループのコーディネーティングセンターがあります。結構大活躍で、いろいろな研究をやっています。それから再生歯科医療の研究グループもあります。いっぱい幹細胞の研究をやっています。臨床頭蓋顔面研究グループ、口腔頭蓋顔面研究グループもあります。クリニカル、歯科材料、技術の研究をこのグループはやっています。地域口腔医療研究グループ、歯科教育研究グループもあります。ここではその一部を紹介しています。

#44

ここに挙げられている機関と共同で働いています。これには保健省、がん研究基金、ニュージーランドのオタゴ大学が含まれます。次のステップは医科歯科で一緒に働くことです。

#45

これが大学院センターの施設です。新しいビルです。こちらが紹介患者施設と新しい講堂です。こちらが歯学部の大学院トレーニングです。行動管理のテクニックを学んでいるところだと思います。

#46

ラボは 4 つあります。頭蓋顔面と分子生物学があります。それがこちらです。これは生体歯科材料学のラボです。口腔病理診断と Balai Ungku Aziz 研究室があります。これは反対側で図書館があります。

#47

これはリサーチラボの写真です。大学院生、そして教授が研究をしています。

#48

こちらは地域研究グループのひとつのグループです。ジャングルに行ったりもします。これは、アボリジニです。時にはチェックアップとデータを収集するために 2，3 時間かけ

てボートに乗って行くこともあります。いろいろな人とのコミュニケーションをとることは、とても興味深いことです。この子たちはアボリジニで口腔診査を受けています。ちゃんと口をあけてくれたら歯ブラシをあげます。

#49

大学院生たちです。うちの大学院生も何人かいます。これは写真の講義で、症例報告のための写真の撮り方を学んでいます。これはニコンマレーシアが行っています。

#50

これはマラヤ大学の歯学部がイングランドの基準を満たしていることを報告している1998年の新聞記事です。

#51

これはAnnals of Dentistryという歯科教職員の学術誌です。私がお話しした短期プロジェクトのような研究、ほとんどの短期プロジェクトはここで出版されます。より質の高いプロジェクトはもっといいパブリケーション、ISIパブリケーションとかに投稿します。

#52

これは卒業式の日です。私がどこにいるかわかりますか？ここです。大学院生と歯科大生もみんな一緒です。

#53

これは私が修士研究をしたエジンバラ・デンタルインスティテュートです。これはスコットランドのエジンバラ大学の医学・獣医学部の一部にあります。

#54

これは2年プラス1年のプログラムで、小児歯科の専門医審議委員会によって承認されています。これが入学要件です。基本的には同じですよね。そんなに違いはないですね。

#55

こちらも同様です。講義、セミナー、臨床の入門プログラムです。このプログラムでは臨床的なスキルの習得、ラボ、患者の臨床的ケア、外傷、ジャーナルクラブ、ディスカッショングループなど、その他の修士プログラムと同様なことが行われます。

#56

これはエジンバラにいたころの私です。地域の人と交流をしています。私の最初の息子です。これが 2 番目の子です。家にもう二人おります。これがエジンバラ城です。とても素敵なところです。

#57

日本で学んだこと。エジンバラにいたとき、いつも日本のことを思って、その歌、「上を向いて歩こう」、また、負けず嫌いのことや、頑張れば絶対に乗り越えられること、いつも心にありましたので、それで多分マスターできました。

#58

これは、私はグループ 10。これは卒業する前の日曜日の写真です。卒業前後の違いがわかると思います。これは昨日の打ち合わせで川口教授と 森尾教授とご一緒しています。

本当に TMDU の卒業生として誇りに思って、この機会をいただいて本当に心から感謝しています。ありがとうございました（拍手）。

（川口） Lily 先生、どうもありがとうございました。

それでは、ここで 10 分ほど休憩を入れまして、それでは 3 時 40 分から残りの 3 人のプレゼンテーションと、それからディスカッションに行きたいと思います。どうもありがとうございました。

◆休憩◆

（森尾） それでは、お休みできましたでしょうか。引き続き、後半戦を始めたいと思います。あと 3 人パネリストの方がいらっしゃいまして、偶然というか、今の歯学科のカリ

キュラムの前の前のカリキュラムで基礎研究選択実習、今でいう研究体験実習があったのですが、この3人の先生たちはなぜか3人とも私の歯学教育開発学分野で実習をしてくださいました。

まず後半の1人目はHaslina Rani先生で、2003年の本学歯学科の卒業生なのですが、その後、これは英語で言うと国立マレーシア大学の略でいいのでしょうか。今、そちらの講師をしていらっしゃいますが、とても日本が好きとみえて、歯学科を卒業した後に、本学の大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野の大学院生で、また入ってくださいました。今日のプレゼンテーションは、「東京医科歯科大学を卒業しました！」というタイトルです。Haslina先生、よろしくお願いします。多分、これからの3人は日本語で話すと思いますので、よろしくお願いします。

講演4「東京医科歯科大学を卒業しました！」

Dr. Haslina Binti Rani

皆さん、ゆっくり休めたかと思いますが、2003年卒業のHaslinaと申します。事務処理番号1175です。よろしくお願いします。ふざけたようなタイトルですみませんが、先輩方からすごく参考になったかと思いますが、これから私の経験を発表させていただきたいと思います。寝ないでくださいね。

（以下スライド併用）

#3

私がいたときの東京医科歯科大学は、教養部2年間と湯島キャンパスの学部4年間で、9時から5時までの授業と実習、臨床は最後の1年のみでした。私は、確かOSCEがありました。最初の年だと思います。国家試験も受けました。

#4

写真がいっぱいありますので、ぜひ見てください。

#5

教養部です。

#6

19 歳のときの私です。あまり変わっていないでしょう（笑)。

#7-8

医学科の学生と結構仲良くしてもらっていて、これが、今はいるかどうか分からないのですが、解剖学の山下先生です。

#9

田上教授の保存修復の実習です。

#10

　そのほかにも、外でいろいろ活動しています。

#11

D6 です。3 名はまだ東京医科歯科大学に残っていますが、皆さん、分かりますか。

#12

技工です。私は、技工は苦手です。いつも誰かにやってもらいました。ちょうど 2002 年はサッカーワールドカップの年だったので、結構盛り上がっていました。

#13

私の班です。D6 の C 班です。これは確か、先生との飲み会の後です。

#14

国家試験の模擬試験のときの模様です。国家試験の勉強以外は、こんなに一生懸命勉強している友達はあまり見ませんでした。

#15

やっと 2003 年に卒業です。

#16

私の学年です。

#17-18

先生方の写真もいっぱい載せました。本当にお世話になりまして、ありがとうございました。

#19

やっと卒業できまして、長かったような短かったような感じですが、卒業は終わりではなくて始まりだと私は思います。

#20

そして、「東京医科歯科大学を卒業しました。その後」、ここからが本題です。

#21

その前に、マレーシアの歯科医のキャリアパスウェイをおさらいします。私たちのときは3 年間でしたが、そのときは歯科大学が二つ三つしかなかったので、それでよかったですが、今はいっぱい出ていまして、義務が 3 年間から 2 年間になりました。9 割以上の方が保健省で働き、ごく一部の人が防衛省に入って、義務が終わったら、半分半分ですね、プライベート（民間）に行くか、保健省で歯科スペシャリストか GP として残ります。ごく一部が大学に行きます。私の場合は、保健省に 6 年間ぐらいいて、その後大学に行きました。

#22-23

保健省のときの私の経験談ですが、最初の 1 年間はすごく大変でした。先輩の話と大体一緒になると思いますが、本当に、こんなに怒られたことは人生ではなかなかなくて、毎日泣いていました。森尾先生に、確か、こんなにつらい思いをしていますというメールを出しました。思い出すと、今でも泣きそうになります。

2 年目から田舎町に飛ばされて、一般歯科医として働きました。2007 年 5 月からは、ある保健省の歯科保健課の上司から、うちに働きに来ませんかという声が掛かって、行きま

した。仕事は、臨床は全然やらなくて、国のポリシーとかデータの管理といったデスクワークです。私の場合は人事という仕事を任されたのですが、下っ端だったので、人事だけではなく、ほかのこともいっぱい頼まれて、すごく勉強になりました。

#24

これが、私が2年目から4年目まで働いたところです。Pahang州という州なのですが、ここがクアラルンプールです。半島の中で一番大きい州で、ここがTriangです。これが一番発展しているところですので、分かるとおり田舎町です。

#25

ここが私が勤めていたクリニックです。私の部屋です。2年にして部長になってしまって、その下に、日本にはない職業ですが、歯科看護師が6名いました。これが歯科技工士さん、こちらの方3名がヘルスアテンダントです。雑用をやってくださる方々で、すごく助かります。掃除など何でもやってくれます。この4名が歯科助手さんです。歯医者1人に、歯科助手が4名もいます。車を2台持っていますから、こちらが運転手さん2人です。

そしてカルテ保管室です。私の病院はチェアが3台あります。でも、歯医者は1人ですので、日によって、患者さんを3名座らせて、チェアからチェアに移動します。

これは、皆さん、分かりますか。日本人は見たことがないと思います。田上先生、分かりますか。これはアマルガムメーターです。私もマレーシアに帰って初めて見ました。まだ盛んに使われています。

#26

日本と違うところは、多民族国家ですので、言語問題です。日本人には信じられないと思いますが、同じマレーシアでも言葉が通じないのです。同じマレーシア人なのですが、英語も話せない、マレーシア語も話せない。どういう問題が起きるかというと、簡単に言うと、抜歯の後の注意事項が伝えても伝わらないのです。

結構いろいろな問題が起きて、私たちが工夫したのが、こういう紙を用意して、注意事項をタミル語、中国語、マレーシア語、英語の4カ国語で書いて、待っている間に患者さんに読んでもらって、分からないところは周りの人に聞いてもらうか、入ってから先生に聞いてもらいます。皆さんが分かるように。

これが私の病院の待合室です。インド系の方もいますし、中国系の方もいますし、マレー系の方もいますので、いろいろな人がいます。しかも、多いのです。多いときは、朝だけで、60名ぐらい来ています。先生は1人です。これをやってからは、夜中に私の家に来て「先生、血が止まらない」とか、そういう問題は少なくなりました。

#27

中です。こちらが技工室です。こちらは車の1台です。私が行く前に、上司からISOを始めなさいという命令が下されました。この田舎町で、今まですごくのんびりしてきた人たちがISOを始めなくてはいけないということだったのですが、本当に皆さん、私が行ったときは、朝、来て、カードをパンチして、外に出て朝ご飯を食べるのが習慣だったのです。私が来てからは、やはりISOをやらなくてはいけないと、いろいろなドキュメントとかも言わなくてはいけませんし、ちゃんとカルテの管理や在庫の管理など、いろいろやることがいっぱいありますので、うるさかったのです。すごく嫌われたと思います。でも、すごくいい経験でした。

#28

他の先輩方の話にも出ましたが、なぜ車が必要かというと、外に出ることが多いのです。田舎だったのですが、さらに田舎へ行って、無料で歯科治療を提供しました。

#29

ちょっと面白いので載せてみました。7番を抜こうとしたら、8番まで出てきました。

#30

そのほかに、東京医科歯科大学で言うと何に相当するか分からないのですが、Quality Improvement Initiative なのですが、毎年2回、こういうハンドミラーやスケーラー、充填機の棚卸しをやらなくてはいけないのです。すごく時間がかかりますし、分かりづらいので、こういうかばんを作りました。ポケットがいっぱいあって、この白いラベルは取り外せて、一人一人にこのかばんを渡して、例えばデンタルミラーが5本あるとすると、ここに「デンタルミラー5本」と書いて、6本目の穴に差します。デンタルミラーを一本一本入れて、それで分かりやすくなると思いました。説明すると長くなりますのでスキップし

ますが、結構いいものですので、もしもう少し知りたい方がありましたら、私に後で聞きに来てください。一応、2006 年 Pahang 州大会で優勝しました。

#31

その後は保健省歯科保健課で 2 年間ぐらい働きましたが、あまり写真がないことに今気付きました。

#32-33

2009 年からは、Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM) という大学に転職しました。大体マラヤ大学と一緒です。学部と大学院がありまして、学部が 5 年制で、3 年生から臨床をやります。過半数は女性です。80%ぐらいの学生は女性です。

#34

UKM はかなり大きく、土地的には多分マラヤ大学よりも大きいと思いますが、三つのキャンパスに分かれています。一番大きいキャンパスが Bangi というところにあり、私はクアラルンプールキャンパスにいます。これが私のところから見る KLCC で、近くから見る KLCC です。こんなに近いので、10 分で行けます。ぜひ皆さん、クアラルンプールに来たら案内します。

#35

本当に KL のど真ん中なので、土地が狭いのです。こんな感じで、建物がぎっしりいっぱい並んでいます。

#36

実習室と学生のクリニックです。

#37

私は予防歯科分野所属ですので、こちらのクリニックを紹介します。見えますように、禁煙にかなり力を入れています。

#38

マラヤ大学と一緒で、卒業後、保健省で働くと、地域に出ることが多く、コミュニティプロジェクトなどをいっぱいやりますので、学生の間、こうやって教育します。学生さんと一緒に外に出て、いろいろ、こうやって保健教育とかをやります。

#39

私の場合は、大学で籍を確保するために、Ph.D.かクリニカルマスターのどちらかをやらなくてはいけません。私は予防歯科ですので、クリニカルマスターはどこに行ってもなかなかないので、Ph.D.にすることにします。2011 年から川口先生の教室に入りまして、修了したらまたUKMに戻ります。

10年たって変わらなかったことは、皆さん時間厳守だというところです。10時10分といったら、本当に10時10分に始めます。あと、残業が多いところも前と一緒です。皆さん仕事熱心です。最初は講義室が変わらないと思ったのですが、少しきれいになったので、少し変わりました。

10年たって変わったことは、やはり人です。知っている人が少なくなっているし、前は少し仲がいいなと思っていたのに、今会ってみると、時間がたつと人は変わるものだなと思います。それからM&Dタワーがすごくきれいだと思います。

学部の教育も変わったと聞きました。それもいいことだと思います。あとは、研修医制度がありまして、私が学部にいたときは臨床実習が足りない、足りないと結構みんな言っていますが、今は研修制度がありまして、これでいいのではないかと思います。でも、国にとって、国民にとっていいことですが、私にとっては少し問題です。なぜかというと、国家試験に受かったのですが、受かったということが分かったときには、もうマレーシアにいて、登録ができなかったのです。なぜかというと、日本の住所がないので登録ができなかったのです。でも、もうそのときは二度と日本に行かないだろうと思って、そのまま放置していたのですが、また戻ってきて、今から登録すると研修医をやらなくてはいけないので、すごくそれは考えなくてはいけません。

#40

東京医科歯科大学のよかったところは、やはり友達です。友達がいなかったら、卒業はできなかったと思います。

あと、先生方です。比率がすごくいいと思います。先生が多いというところが、歯学、医学は直接人から学ぶことが一番大事だと思います。ビデオを見てもなかなか伝わらないことがいっぱいありますので、人間から学ばなくてはいけないというところが大事だと思います。

医科歯科の場所、東京だということも、いいと思います。簡単にマレーシアに帰れます。日本人の道徳、人を尊敬すること、謙虚なところとかもすごく好きです。あとはリソース管理ですね。少ないお金やスペースの中でどうやってうまくやっていくかは、学ぶべきところです。

#41

Ideas for Improvement ですが、教養部の期間を短くと書いたのですが、今は短くなっていますね。それから、臨床ケースを多くした方がいいのではないかと思ったのですが、研修医制度で賄うのではないかと思います。

あとは、学生の自信を向上させるようなプログラム、そういう機会もたくさん与えた方がいいのではないか。例えば外国の歯科大生との交流プログラムとか、それで自信もアップできるし、英語力もちょっとアップできると思いますので、検討してもいいと思います。

私の希望として、私たちは卒業してマレーシアに帰っても、一生、医科歯科卒です。ほかの人から見て、日本の大学を卒業した、医科歯科の名前を背負います。ですから今後、どこへ行っても何にでも対応できるような歯医者を、医科歯科で育ててほしいと思います。これが私の心からの希望です。

#42

本当はスライドを短くしたかったのですが、長くなってしまって申し訳ないのですが、誰も寝ていないので成功したかと思います。私はこの 3 名のために頑張ります。これからもよろしくお願いします。

#43

Gong Xi Fa Cai！ 今日の人は一人しかいないです。ちょうどこの時期、旧正月です。皆さん、後で質問がありましたら。これで終わりです（拍手）。

（森尾）　Haslina 先生、どうもありがとうございました。いろいろご助言をいただきました。次は、Chu Wai Weng 先生です。Chu 先生は今、クアラルンプールとペナンの中間のあたりにある Ipoh(イポー市)で開業されています。2004 年の卒業です。「LIFE AFTER TMDU」というテーマで、お話しいただきたいと思います。

講演5「LIFE AFTER TMDU」

Dr. Chu Wai Weng

こんにちは。まず、自己紹介したいと思います。2004 年卒の Chu と申します。よろしくお願いします。また東京医科歯科大学を訪問できて、うれしく思います。実は長い間日本語を使わなくて少し駄目になってしまいましたので、これから原稿を読むことになるかもしれません。すみません。では、始めましょう。

（以下スライド併用）

#2

最初に、私の教育について説明します。これは、私の高校です。St. Michael といって、下にあるのは、つい最近 100 周年を祝ったときに撮影したものです。

#3

1997 年の 4 月に来日し、東京外国語大学留学生日本語教育センターに入学しました。多国籍の学生がたくさんいて、すごく楽しい 1 年間でした。そこで日本語を勉強しました。

#4

1998 年に、東京医科歯科大学の歯学部に入りました。2 年間を国府台にある教養部、お茶ノ水にある学部で 4 年間を過ごしました。その 6 年間、いろいろいい思い出がありました。

#5-6

同級生たちと一緒に飲んだり遊んだりして、楽しかったです。

#7

実は、私はあまりいい学生ではありませんでした。あまり一生懸命には勉強しませんでした。そして、よく再試験を受けました。そのことについて、今まですごく後悔しています。でも、遅いのです（笑）。しかし、多くの東京医科歯科大学の先生と同級生たちの助けがあって、無事に卒業することができました。

#8

ここが技工室です。僕のステーションは、一番角にあります。これは最初に作った全部床義歯です。

#9

卒業する前に紙に書いていた僕の目標です。ちょっとやせたいと思っていたので、貼っていたのです。卒業してから1年たって、また日本に戻ったら、まだそこに貼ってありました。隣にいるのは、マイ・ワイフです。

#10

私のユニットです。20番。隣にいるのは、私と一緒にユニットを使っていた若杉さんです。下にいるのは柳澤先生です。今、後ろに座っています。

#11

これは、昔使っていた矯正の試験対策です。まだまだ大事に保管しています。

#12

よくできているもので、私もあそこに登場しています。分かりますか。

#13

私は卒業してすぐにマレーシアに帰りました。帰ったらすぐに Malaysia Dental Council に登録して、正式に歯医者になりました。そのときはまだ政府との義務サービスが3年間ありますが、つい最近、2 年間になりました。その原因として考えられるのは、マレーシアの保健省が歯科医の急激な増加に対応できなくなったのだと思われます。

#14

この表から、マレーシアで新しく登録する歯科医の数が急激に増えていることが分かります。2011 年に登録する人数は、2006 年の倍ぐらいでした。ここで、12（3）に書いているのは認定されていない大学から卒業した場合で、3 年間に加えて 2 年間、研修医生として働く必要があります。

#15

次の表は、マレーシアで毎年発行される APC のことを説明します。APC とはライセンスみたいなものです。2006 年に 2988 人がライセンスをもらったのに対して、2011 年は 4289 人になりました。この数はだんだん増加していくと予想されています。

仕事が始まる前に、一応面接を受けました。そのときに一番深く印象に残ったのは、臨床経験を聞かれたときでした。マレーシアでは、日本の大学を卒業した歯医者はあまりいないので、みんな好奇心が強かったです。私は、卒業するために必要な minimum requirement をみんなに説明しましたが、逆に笑われました。彼らは、私がマレーシアの国立クリニックで働き始めたら、数日だけでそれを簡単に達成できると言い出しました。それを聞いて、私は少し怖く感じました。これからの仕事に関して、心の準備ができました。

#16

2004 年 5 月に入って、私は地元のイポー市にある国立歯科クリニックで歯医者として仕事を始めました。FIRST YEAR DENTAL OFFICER（FYDO）で各専門分野のクリニックに回りました。最初の 2 カ月、私は外来の仕事をしました。卒業したばかりにもかかわらず、私はすぐ外来で患者を診る任務を与えられました。

マレーシアの国立歯科クリニックの外来は、結構忙しいものです。普通、午前中だけでも 40～50 人の患者さんを診ました。私たちは、彼らを一般的に診断して、chatting して、必要な治療をしました。つまり、私たちは 1 時間に 10 人ぐらいの患者を診なければなりませんでした。大多数の患者さんは抜歯のために来ました。スケーリングと充填が必要な患者さんもいましたが、時間が許す場合だけやりました。新卒の私にとって、すごく大きなチャレンジでした。単に麻酔を注射するだけでも、経験不足でした。

私と同時に仕事を始めた歯医者は、あと 2 人いました。1 人はインドのマニパル大学卒業、もう 1 人はマラヤ大学卒業でした。彼らとの経験の差は明らかでした。特にマニパル

卒の歯医者でした。彼は簡単に仕事を行うことができました。実力の差ではなく、単なる経験不足の問題です。最初の数週間、私は時々彼に指導を求めなくてはなりませんでした。私は、日本の歯科大学で臨床実習を受ける機会があまりないと説明しました。日本では、大学生に治療をしてもらうことに同意する患者を探すことは大変だと説明しました。彼らは私が言っていたことを理解し、私と経験をシェアしました。

2 カ月たったら、私はだんだん慣れてきて、1 日に 60〜70 人ぐらいの患者さんを診て、平均的に 1 日に 40 本ぐらいの抜歯をしました。もちろん、たまに時間があったらスケーリングと充填もしました。

1 年目が終了すると、私は遠い田舎町まで派遣されました。とても田舎の場所でした。歯医者は、私一人だけです。そこへ行ったら、私は一番トップの人になりました。2 年目の歯医者として、結構いいですね（笑）。

悪いことは、私はそこで、臨床だけでなく、administrative の仕事もしなくてはなりませんでした。私は 5 日間そこで仕事をして、phonecall もしました。残りの 2 日間、＊ヒポ＊に戻ってアルバイトをしました。一部はお金のためです。一部は exposure が欲しかったからです。というのは、マレーシアでは健康保険がないのです。だから、国立クリニックとプライベートクリニックでの歯科サービスは少し違います。プライベートクリニックで、私たちは好きに料金のチャージをすることができます。

#17

もちろん、ガイドラインがありますが、最終的にはそれは私たち次第です。政府との 3 年間の義務サービスを終えたら、私はイポー市で自分の歯科医院を始めました。大したものではなく、基本的な設備しか持たない小さなクリニックです。レーザーファントムや CBCT、顕微鏡などは全然ありません。しかし、セットアップ費用は日本よりずっと安いです。私の場合は 600 万円ぐらいだけかかりました。高い機械よりも、いいプレゼンテーションを患者さんに与えることが大事だと思います。

#18

これは私のクリニックです。基本的にどんな治療でもしますが、矯正とインプラントはしません。始めたばかりのときは、1 人のスタッフしかいませんでした。マレーシアでは、クリニックはどんなに広告しても駄目です。だから、最初のころは結構つらかったです。

患者さんがあまりいませんでした。1 日に 3〜5 人だけでした。

#19

ゆっくり時間をかけて自分の名前をビルドアップして、今、開業してから大体 5 年たちました。毎日、20〜25 人ぐらいの患者さんを診ます。クリニックに登録している患者さんも、約 9000 人に達しました。主に地元の人だけです。しかし、6 カ月のチェックのために、海外から来てくれる患者さんも数人います。今まで一番面白かったケースは、香港に滞在しているマレーシア人です。彼は、1 本の歯が破折したケースで、根管治療とクラウンを作成するために、5 回ぐらいマレーシアと香港を往復しました。

とにかく私が東京医科歯科大学で学んだ重要なことは、患者とドクターのいい関係をセットアップすることです。私はその講義中に寝なくてよかったと思います。東京医科大学での授業は日本語でした。だから、私は中国語や英語やマレー語の歯科専門用語は全然知りませんでした。確かに政府の研修をするときに、専門用語に欠けると結構大変でした。しかし、専門用語が分からないからこそ、患者さんとよいコミュニケーションができました。それは、私が簡単な言葉で彼らに説明することができたからです。

#20-21

マレーシアには日本のような健康保険がありません。ほとんどの民間健康保険は、歯科治療をカバーしないことも事実です。一方、法律で歯科治療料金のガイドラインを指定していますが、指定した価格は一般の人々にとって結構高いです。例えば普通のクラウンで、私は 500 リンギットをチャージします。それは約 1 万 4000 円です。日本人にとってはあまり高くないかもしれませんが、普通のマレーシア人の月給の 1 割ぐらいです。ですから、マレーシアでの歯科治療のアプローチは、日本と比べて少し異なっています。患者さんはいつも治療費を考えているので、私たちはできれば一番コストが安い方法を勧めます。例えば、いつもレントゲン撮影をするわけにもいきません。根管治療、クラウン、ブリッジのような高い治療になると、一番聞かれる質問は、「これは永遠に使えますか」「エンドの治療に関して保証がありますか」、そのような質問はやはり答えにくいです。政府は全然補助金を与えないので、彼らは 100%自分のお金を出しています。だから、東京医科歯科大学で学んだ幾つかのアプローチは、マレーシアでは使用できません。決して教えられたことが間違っているわけではありませんが、ただ、一般のマレーシア人の経済状況に合わせ

て治療計画を立てる必要があります。

私にとって東京医科歯科大学の学部のプログラムのセオリーの部分は十分だと思いますが、多くの日本人の卒業生は大学院に入ったり研修医になったりするので経験不足を感じないもしれませんが、私のようにすぐ臨床に突入する人にとっては、1 年間の臨床実習ではとても足りないと思います。わずか 1 年間は短すぎると思います。少なくともほかの人と同じように、2 年間か 3 年間ぐらいがいいです。今はそうですが、国府台で 1 年間にして、臨床実習を 2 年間にした方がいいかもしれません。

以上です、どうもありがとうございます（拍手）。

（森尾）　Chu 先生、どうもありがとうございました。卒業してから、皆さん本当にいろいろな経験をしているということを、初めて詳しくお話を聞いた気がします。それでは、最後のパネリストになりますが、2005 年に歯学科卒業の Zanjebil Alsagoff 先生にお願いしたいと思います。今、Zanjebil 先生は、開業医にお勤めです。まだ赤ちゃんが小さいので、育児と仕事に頑張っていらっしゃいます。では、よろしくお願いします。

講演6「A Journey of Two Worlds:

From a Dental Student in Japan to a Dental Surgeon in Malaysia」

Dr. Zanjebil Alsagoff

私は 2005 年に東京医科歯科大学の歯学部歯学科を卒業しました。今日のトークは、“A Journey of Two Worlds: From a Dental Student in Japan to a Dental Surgeon in Malaysia”、久しぶりの日本語なのでトークは英語でやりたいと思います。申し訳ありません。

（以下スライド併用）

#2

私のトークは私が考えた事をお話しますので、とても主観的な話になります。

#3

これは新入生のオリエンテーションのときの写真です。初めてこのようなアクティビティーが大きな日本人のグループと一緒にできました。初めて日本人の文化を見ることができました。例えば畳の部屋や、ベッドではなくお布団で寝たりして、あとは日本人は飲むの

が好きですね。私はムスリムなので飲まないのです。だから初めての経験です。

#4

チャレンジは外国での一人暮らしです。これは多分どこでも大人になるために大切なのですが、慣れていない国でサポートがなくて、普通よりも大変です。あとは言葉ですね。日本人は、特に男性がボソボソ話すことが多いです。だから聞きにくくて、分かりにくいです。そのほかは専門用語なども学校で分かりにくいし、あとは文化ですね。マレーシアととてもたくさん違っていることがあります。例えばムスリムにはお肉などハラールがあるので、食べ物を買うときには原料を全部見なければいけないし、それが初めてです。自分の国ではそういうことはしなくても大丈夫なので。あとはお祈りする場所なども、外ではモスクなどがあまりないので、出掛けるときなどはちゃんと時間調整をしなければいけません。あとは、例えば横断歩道や信号、日本人はきちんと守りますが、マレーシアではみんな使わないし、また、ちゃんとファーストフードレストランで自分の後を片付けたり。あとはフォーシーズンがあることも、マレーシアはずっと夏ですので、それも違います。

#5

この写真は同級生の留学生です。歯学部はこの二人、インドネシアからの方と私です。ほかの5人はみんな医学部生です。この中では私とこの人だけがマラヤ大学で日本語を勉強しました。あと5人は東京で勉強しました。違いは、ここで1年間勉強するときには、勉強してすぐ使うことができ、プラクティスしやすいので、慣れやすいですね。

#6

アドバンテージは、やはり同級生のサポートです。みんなお互いに助け合って、It's not 'I can do it'、個人的なものはあまりなくて、みんなグループとして'We can do it'という考え方があると思います。

あとは、教科書などは例えば医科歯科にいたときは先生たちや日本人作家の教科書を使っているので、その内容などは、統計などはすべて日本人と関係があるので、それがマレーシアと違います。マレーシアは大体英国の教科書などを使っているので、データなどは全然マレーシアと関係ないですね。

写真は少し見にくいと思いますが、これが部分床義歯の実習だったかな。この写真。あ

とは技工室。これは教養のときに豆まきに友達と一緒に行きました。あとは、この写真はアルバイトをしていました。Medical Hospital で看護助手としてアルバイトをしました。アルバイトをして学んだことは、東京医科歯科大学は Public Hospital ですが、マレーシアの民間病院と同じく、きれいで、スタッフの対応もとても優しくて、マレーシアの公的病院と全然違います。

#7

臨床の 6 年生のときのクラスは、やはり先ほどの先輩の話にも出たと思いますが、先生が多いので、小さいグループでみんな先生がフォーカスできます。あとは日本で 2 handed dentistry をやっていました。それがとても何か、人を待たないで自分でできることを学びました。マイナスは、家族や友達があまり日本にいないので、患者さんが少ないですね。また、短いのでケースもマレーシアと比べたら少ないです。

#8

2005 年に卒業しました。帰るのは悲しかったけれど、I look forward to every chapter in my life.これは江藤先生との写真。これは謝恩会の写真ですね。これは卒業式の後の写真です。

#9

マレーシアに戻って Ministry of Health で働きました。私はマラッカという場所で働きました。これはクアラルンプールです。マラッカはクアラルンプールの南です。148km ぐらいの距離です。マラッカはペナン、プルリスに続いて三番前に小さい州です。一番小さいのがプルリスで、2 番目はペナン、3 番目はマラッカです。

マレーシアでは、最初の 3 年間は研修をしなければいけません。保健省、高等教育省(Ministry of Higher Education)、防衛省の三つの中から働くことができます。

マラッカの人口は 788,000 人、面積は 1,664 平方キロです。2008 年に UNESCO の世界遺産に登録されています。

#10

これが私の First Year Dental Officer Program の経験です。口腔外科は 4 カ月、矯正は

2 カ月、ペリオは 1 カ月。修復歯科は 2 カ月、 General Practice は 2 カ月です。2005 年のマラッカの専門医の数は、口腔外科は一人、矯正科は二人、ペリオは一人、修復歯科が一人と、2007 年には一人の小児歯科の先生が来ました。

#11

卒業した後のチャレンジは、やはりまた言葉です。勉強したときにはすべてが日本語だったので、患者さんに説明するときは大丈夫だったのですが、FYDO のときはほとんど治療する前にスペシャリストに説明しなければいけないので、そのときは専門用語を使うのが難しかったです。あとはカルチャーショック。これは先ほど先輩が話したと思いますが、あまり exposure がないですね。on-call cases とか、maxillofacial trauma。あとは患者さんの数がすごく多いです。あとは患者さんの知識もとても低いです。例えば私がびっくりしたのが、高校を卒業したばかりの若い女の子が、前歯がすごい虫歯で抜歯しなければいけなかったのです。でも平気で、「歯医者に行けば大丈夫」という考えではありますね。あとは、アマルガムはマレーシアでまだ使っていますので、それも大変でした。あとは、私の働いていたクリニックが刑務所の近くで、受刑者が歯の治療に来たので、それはちょっと怖かったです。

#12

少し休憩を入れてこの雑誌を紹介したいと思います。これは女性向けの雑誌です。2005 年 10 月号です。

#13

私はキャリアに関する記事に載りました。ここでのメインの話題は、イスラム教に則った社会生活と仕事のバランスについての記事です。

大体の内容は、どうして歯科医になったか、歯科医師という仕事はどんなものか、忘れられないケースは何か、モチベーションになっていることは何か、日本文化、自分が歯科医師としてどんな仕事をしているか、あとはコミュニティーサービスとイスラム教。

#14

FYDO を終えて Rural Posting をして、マラッカの Jasin 地区、マラッカは Alor Gajah、Central Malacca、Jasin の三つの地区に分けられて、Jasin は南の方で、エリアとしては一番大きいです。人口は一番少なくて 128,000 人です。Jasin ではひとつのメインになる診療所、3 つの歯科診療所、そして地域病院があります。私は Merlimau 歯科診療所で働いていました。二人の歯医者、歯科看護師長 1 人、歯科看護師さんが 5 人で、運転手さんが一人、歯科助手さんが 4 人で、医療助手も 4 人いました。

#15

これが毎日のスケジュールの一例です。8 時から 5 時までの勤務で、お昼休みは 1 時から 2 時です。外来と学校サービスがあります。それからまた次に行かなければなりません。普通の日では大体 70 人の患者さんが来て、8 割は抜歯ですね。計算すると 1 人の患者さんは 9 分ぐらいしかありません。でも外来の日は急患と抜歯しかやらない。ほかはただ予約を取ってもらうだけです。ここが Merlimau、私が働いている所の写真です。とても田舎の町です。

#16

これが School Dental Service の写真です。これは私たちが使っている器具です。これがポータブルチェアです。これがライトですが、スタッフによって作られています。

#17

スクールサービスでは、例えば私の場合、Merlimau では 3 つの高校があって、これをカバーしなければいけません。小学校では歯科看護師が治療をしますが、歯科医師は高校生のみを処置をします。3 つの高校にはそれぞれ 1000 人もの生徒がいます。このうち治療の必要がないのはたったの 20%で、60%がスケーリング、20%が処置のみあるいはスケーリングと両方必要なケースです。学校には週に 2 回行きます。学校がある週で 37 週行くことになります。これも計算したら生徒一人あたり 15 分、時間が足りないですね。
こちらの写真を見てください。　ライトが足りないですね。あとは学生さんが自分でバキュームを持たなければいけないとか、十分な機器がないのでとても処置が難しいです。交代で常に滅菌しなければいけません。　とても忙しいです。

#18

地域プロジェクトもあります。例えば、マラッカでは口腔がんのスクリーニングがたくさんあります。これを毎年やっています。マレーシアでは、罹患率は低いです。たったの0.04%ですが、このうち 60%がインド人のコミュニティからのものです。これは噛みタバコ、タバコ、そして飲酒といった習慣から来ています。

#19

その他の私が参加した地域プロジェクトには、地方に派遣されたときに実施した、健康週間というものがあります。警察官舎や孤児、ダウン症候群のケアセンターに行きます。このような移動クリニックで行くわけです。活動は歯科啓蒙、歯ブラシ指導、スクリーニング検査などで、インフォメーションブースもあります。

#20

その後、2007 年に小児歯科クリニックに配属が変わりました。そこは私と専門医のみです。歯科助手はわずか 4 人でした。新しい科なので、私たちの病院内とは言え、プロモーション活動をする必要がありました。チェックアップのために子どもたちを小児歯科クリニックに送ってくるよう、要請しなければならないのです。それまでは、小児歯科クリニックがなかったので、彼らは患者が問題のある時、または大きな手術の前で歯科のチェックアップが必要な時にしか送って来ませんでした。

#21

1 年後、私は歯科保健課に異動しました。

#22

私は専門医歯科保健課部門におりました。私たちはスペシャリスト（専門医）の面倒をみなければいけません。例えばガイドラインを作るためにスペシャリストと協力します。

#23

保健省のみのスペシャリストの数です。大学のデータもあります。口腔外科は 52 人、歯科矯正医は 37 人、ペリオ 21 人、小児歯科は 28、Oral Pathology/Oral Medicine が 9 人、修復歯科医が 16 人。2010 年 12 月です。

#24

口腔保健課では国家プログラムを担当していました。これは 6 月に終えたプログラムのいくつかです。

#25

これはスペシャリストと共同で作り上げたガイドラインです。このガイドラインは 4 年ごとに見直しが行われます。

#26

2009 年に私は UKM に移動しました。UKM はマラヤ大学の次にできた 2 番目の歯科大学です。プログラムは同じく 5 年で、DDS の学位が与えられます。現在まで UKM は 400 人の卒業生がいます。これは大学院のプログラムです。

#27

これは実習、受付、そしてこれが学生のクリニックです。

#28

UKM ではフェーズ 1 とフェーズ 2 の二つのフェーズがあります。フェーズ 1 は基礎歯科学で、こういった分野をカバーします。

#29

フェーズ 2 は 3 年から始まり、臨床を始めます。

#30

今まで臨床経験が長いほどより進歩すると信じてきました。しかし今は本当にそうだろうかと思っています。もちろん多くのケースをこなせばより自信がつきます。でも UKM ではツーハンドではなくフォーハンドで診療していますが、これはパートナーに依存することになります。そして待ち時間で、たくさんの時間を無駄にすることになります。

#31

これは医科歯科との違う点です。医科歯科では 1 年しか臨床がありません。ほとんどのマレーシアの大学では 3 年間の臨床があります。ここでは臨床ケースが少なく、マレーシアではケースが多いということになります。

#32

その他に挙げておく点は例えばユニフォームです。例えば歯科看護師さんや歯科助手。彼らはユニフォームを家から着て行って、仕事をし、そのあとに着替えます。衛生的ではないです。

　あとは洗面所などは、東京医科歯科大学でハンドルをひざでコントロールするのですね。手を洗った後にもう一度手を使う必要がありません。他に挙げるべきことは手のアクセサリーです。東京医科歯科大学では手を洗う前にすべて取るように言われますが、マレーシアでは指輪をしたままとかで治療するのです。

　そのほかは、小児歯科のクリニックにいた時など、患者の自覚度が低いので、説明がとても難しいです。お母さんが来て、歯がもともとから悪いとか言って、明らかに虫歯なのですが（笑)。

親たちは子どもを怖がらせます。例えば言うことを聞かないと先生は歯を抜くよ、とか注射をするよ、などと言って脅かします。結果として、患者の協力が得られなくなってしまいます。

設備もやはりここで使っているものと全く違っています。ここではツーハンド用にセッティングされています。例えばバキュームをしなければいけないとき、ただつなげて置いておくだけです、しかしあちらでは誰かが必ず必要です。歯科助手がサクションをいつも持っています。例えば向こうにいって何かを用意するのも一人助手が必要です。たとえば、患者さんが自分で手を持たなければいけないことになります。

#33

これが私の今のほとんどの時間を占めている事柄です。料理、掃除、洗濯。

#34

そして時々

#35

これが参考文献です。以上です（拍手）。

（森尾）　Zanjebil 先生、どうもありがとうございました。歯科学生として過ごした日本と、歯科医師として働きだしたマレーシア、二つの世界を旅してということでお話いただきました。それでは、少し時間が押しておりますが、質疑の時間を取りたいと思います。少し準備をしますのでお待ちください。

4.パネルディスカッション

「国際医療人の育成を目指して（Educating International Dental Professionals）」

（司会）　皆さん仲良く座れましたか。それでは、いろいろなテーマでプレゼンテーションしていただきましたが、今から何かご質問を、日本語でも英語でもよろしいかと思いますけれども。はい、それではマシタさん、お願いします。

（マシタ）　マレーシアの皆さん、話をありがとうございました。マシタと申します。今、口腔病理の大学院１年生です。インドネシア大学を卒業しました。先ほどの話から、何か皆さんの一番の悩みは臨床経験、臨床の exposure が足りないことですね。でもそれにかかわらずに、東京医科歯科大学の教育のいいところは何ですか。そのいいところからマレーシアの教育に影響したいことは何ですか。ありがとうございました。

（川口）　Lily さんとか。誰にお答えいただきましょうか。

（マシタ）　皆さんに一言。

（Lily）　質問をありがとう。臨床的な練習は本当に少なくて、でも向こうに戻って毎日やって、それで学びました。でも東京医科歯科大学で得たものは、本当に一番残っている

のは、本当に友達のサポート、チームワークと、先生たちのアシストで、聞けば本当にクリアに説明してくださったり、また友達は本当に一緒に勉強してくれたり、友達のサポートがなかったら本当に駄目でしょうね。だから友達の関係とか、コミュニケーションが本当は大事で、本当にそれで助かりました。それが一番いいものです。

あとは一般的なもの、時間を守ってとか、自己規律、あとは何だっけ？（笑）　それで、どうやって歯科医をやって、だから自分で自信を持ってできます。

（川口）　では、Haslina さん。

（Haslina）　マレーシアの学生と比べると、日本の歯科大学生の人を見て、すごく自立できているというか、自分で生活の基盤を作らなければならない。お金が必要なら、働かなければいけないし、自分で学校に通わなければいけない。マレーシアでは、特にマレーシア国立大学では学生局があります。学校までのバスのサービスがあります。勉強以外に何もしなくてもいいのです。ところが日本では自分で早起きして、自分で下宿先も探さなければいけない。自転車や電車で移動しないといけない。とってもたくさんのことがあって料理もしなければいけない。どういうことかというと、特に医科歯科は日本でとても人気のある歯科大学で全国、九州からも学生が来ています。彼らは部屋を借りて暮らしてますから、料理も自分でする必要があるわけです。そういう意味ではマレーシアはとても簡単です。私たちは日本の学生から自立を学ばなければいけないと思います。

（川口）　他にどなたか追加することなどはありませんか。

（田上）　多くの皆さんが医科歯科での臨床研修は足りないと言っています。私は、マラヤ大学の外部試験官として呼ばれたときに、最終試験に出席しました。学生は自分の患者を診ていました。そのとき、卒業生のクオリティは、けっして高くはありませんでした。しかし、あなた方はそれでもなお、ここでの臨床トレーニングが十分ではないと感じています。あなた方がマレーシアに戻って、医科歯科を卒業してすぐの臨床能力の違いについて、他の学生と比較して特に何か気づいた経験などありますか？

（Haslina）　私たちは教育の質が低いとは決して言ってはいません。私たちが自信を得る

までの十分な経験が少ないと感じているだけです。私たちが受けたのは質の高い教育です。なぜならスライド中で述べたように、学生—講師の比率はここではすばらしいことにほぼ等しいのです。マレーシアはそうではありません。私のクリニックでは一人のインストラクターにつき 20 人ぐらいの学生がいます。一人ずつ面倒を見るのは実際には難しく、高い質の教育とは言いがたいです。一方ここでは自信を得るまでの臨床経験が少ない。単にそれだけだと思います。

（田上）　十分な臨床経験は自信を持つためにはとても大事です。その意見に同意いたします。私たちの大学のドクターは少し過保護なのかもしれません。これが原因で自信がつかないのかもしれませんね。インストラクターも多すぎるのかもしれません。

（Lily）　多分その代わり、私たちは留学生だから少し補助がありますので、多分その比率に関してはわかりませんがもうひとつ別の要素は、マレーシアの学生はリクワイアメントをクリアーすることに終始して、質の高い仕事をすることを忘れています。したがって総合的なカリキュラムに移行することによって患者全体を診て、リクワイアメントとして見ないようにすることを狙っています。

（Zanjebil）　マレーシアでは 3 年、ここ（東京医科歯科大学）では 1 年の臨床経験なので、もちろん自信を持てないということはあります。でも、一番大きな問題だと私が考えているのは、ここでまったく経験ができない処置があったということです。例えばアマルガム充填です。最も単純な処置ですが、私たちはどうすればいいのか知らなかったのです。初日に患者を診て、アマルガムを「さあやりなさい」となったときに、「わかりません。やったことがないので」と答えたら、「歯科医師なのになんでできないの？」となってしまいます。

マレーシアの歯科医師がたくさんの抜歯、下顎孔伝達麻酔をこなしているのに、ここでは私たちは先生の監督下で行います。救急のケースでマレーシアではこういった処置を行います。患部洗浄も縫合も、小外科もこなします。私たちには（東京医科歯科大学）ではそんな経験がありませんでした。でも歯科医官の 1 年目を終えて、私が必要だったのは自信だけで、周りの人（マレーシアの歯科医師）を見ると、逆に彼らは自信過剰だったように

思えます。そしてその人たちの仕事はお話にもありましたが、質的には高くありません。しばらくたってやり方がわかり、自分も他の人と同じようにできるということがわかればまったく問題のないことだと思います。

（Azura）　2009 年に卒業した私の後輩に起こったことに関する意見をここで付け加えさせていただきます。彼女は歯科研修医として働いた 1 年目に問題に直面しました。彼女と違って私たちは 1 年目の研修医プログラムつまり FYDO を修了することにより登録歯科研修医になれたのですが、彼女の年から制度が変わって保健省がカリキュラムを見直して臨床経験が不足していると判断しました。その結果、プレ研修医プログラム（pre-FYDO）、つまり歯科学生のように 10 症例の修復、10 症例の根管治療、口腔外科研修が 2 ヶ月、矯正で 2 ヶ月の研修などの 1 年のトレーニングが課せられたのです。これを修了後、晴れて FYDO のプログラムに入り、その 1 年後登録歯科研修医と認められます。このケースでは私たちが卒業後に私たちのプログラムを見直したので、差別のようでしたし、彼女にとってはきつい 1 年目の歯科研修医だったと思います。

（田上）　これは他の卒業生にもある差別のようですね。イングランドやアメリカ、その他の国の歯科大学を卒業した同僚はどうですか？彼らのパフォーマンスはどうですか？

（Azura）　彼女の場合、初年度がプレ歯科研修医プログラムでしたからね。それ以前にロシアの歯科大学から来て 1 年目の歯科研修医として赴任した卒業生は、おそらくその人がロシアのカリキュラムをほとんど知ることがなかったので、日本の記録を他の大学の卒業のものと同じくらい不十分であるという批評をしています。地域の大学の卒業生は初年度に登録歯科研修医として配置され、私たちの 1 年目の歯科研修医プログラムと同じコースに行きます。でも最初の 2 年間だけです。このプログラムは保健省によって見直されています。

（田上）　なかなか自信満々の人はいないと思います。

（川口）　では、後でまた夜のディスカッションタイムもありますから（笑）。

それでは、フォンさんから何か質問がありますか。

（フォン）　みなさん素晴らしい講演をありがとうございました。二つ質問があります。最初にマレーシアでは3年生からクリニックに出ると思うのですが、最初に何ができるのでしょうか？実際に患者に触れるのかそれとも見学だけですか？

（Haslina）　もちろんステップがあります。２年生の時に患者にコンタクトをし始め、3年生では実際に診療をします。最初は学生同士、自分の友達を患者にします。これはごく自然なことです。近い人を診ることによって慣れてきて、本当の最初の患者を診るわけです。たいていは単純なケース、スケーリングや1級修復から始めます。それからより複雑なケースにステップアップして､最終年には臼歯部の根管治療などをするようになります。もちろん監督下で行うのですが。

（フォン）　私の2番目の質問は救急患者の扱いです。マレーシアでは緊急治療を学生が行うのですか

（Haslina）　みんなを代表して言えば救急は嫌です。歯科医師も場所によっては救急処置をマレーシアではしなければいけません。パハンにいたときは形成外科医がいなかったので、眼下、鼻部を含むアクシデントにも救急で対応しなければなりませんでした。呼ばれて行って縫合をしなければいけません。ここ（医科歯科）でも学びますが、骨折のLe Fort分類 I,II,IIIの整復すべてやらなければいけないことは、とても難しいです。マレーシアではとてもこういった事故が多いのです。

（川口）　ほかにどなたか質問はありませんか。一つ私からお聞きしたいのですが、例えばAzuraさんは5人のお子さんがいて仕事をして、今、医科歯科大学では女性研究者支援室がやっとできまして、女性のサポートという形ですけれども、マレーシアで皆さん、お母さんとして頑張りながらすごく仕事と家庭を両立させていると思いますが、女性の歯科医師としての生き方として、何かそういう子供がいながら頑張っていけることを、少しお話をもし聞けましたら。

（Nosizana）　皆さん、お手伝いさんがいると思いますが、私は今、お手伝いさんがいないので少し困っています。私はお手伝いさんがいないから朝は少し忙しくて、子供を保育園に置いてから仕事に行きます。帰りも子供の荷物だけ取りにいって、家に帰ります。子供はそのまま学校から直接家に帰りますけれども。マレーシアは学校の制度が、子供は朝、違う学校に行って、その後午後の学校に行かなければいけません。子供たちも少し大変です。

（Azura）　彼女の意見に付け加えれば、マレーシアでは 8 時から 5 時までの労働時間です。したがって乳児を保育園においてまた仕事から迎えに行く時間の都合をつけるのは比較的楽です。もし国立のクリニックで働いているのであれば残業がありません。残業はないのですが、当直があります。もし緊急 call であれば病院内に午後 5 時から朝 8 時までいなければいけません。もし地域の当直であれば病院施設内にいるか、あるいは家で待機していて何かあったときに呼び出されます。MVA や暴行のケースなどです。午後 5 時から翌朝の 8 時まで夜中でも呼び出されます。真夜中にどこにも行けません。いつ呼び出されるか分からないからです。こんな場合は夫に頼らなければ、子どもの面倒が見られません。こういったことで当直、救急担当は嫌いです。このような理由で、私はより深い勉強をしているのです。

（川口）　ありがとうございました。医科歯科大学は皆さんに母校として誇りに思ってもらえるような大学であり続けたいと思いますので、それに向けて頑張りたいと思います。これからもいろいろご助言をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、感謝状の贈呈に移りたいと思いますので、田上順次歯学部長から、今日発表の順に感謝状を贈呈させていただきたいと思いますので、Azura 先生、Nosizana 先生、Lily 先生、Haslina 先生、Chu 先生、Zanjebil 先生の順にお渡ししたいと思います。

（田上）　感謝状。Azura Binti Abdullah 先生。あなたは大学の世界展開力強化事業、国際シンポジウム「国際医療人の育成を目指して～元学部留学生による歯学教育の国際評価～」において講演をされ、参加者一堂に多大なる感銘を与えられましたので、ここに厚く謝意を表します。平成 25 年 2 月 13 日。東京医科歯科大学歯学部長、田上順次。

ありがとうございました（拍手）

Nosizana Binti Mohd Salleh 先生。あとは同じ文章です。以下同文です（拍手)。

Lily Azura Binti Shoaib 先生。感謝状。以下同文です。ありがとうございました（拍手)。

感謝状。Haslina Binti Rani 先生。以下同文です。ありがとうございました（拍手)。

感謝状。Chu Wai Weng 先生。以下同文です。どうもありがとうございました（拍手)。

感謝状。Zanjebil Alsagoff 先生。以下同文です。ありがとうございました（拍手)。

（川口）　田上先生、ありがとうございました。それでは、本日のパネリストの先生から本学歯学部の方に記念品があるということですので、贈呈をお願いいたします。

◆記念品贈呈◆

（田上）　ありがとうございます（拍手)。皆さん、ありがとうございます。

（森尾）　どうもありがとうございました。それでは、荒木孝二歯学部教育委員会委員長より閉会の辞をお願いしたいと思います。

5.閉会の辞

荒木　孝二（東京医科歯科大学　歯学部教育委員会委員長）

マレーシアからの留学生の方々、本当に今日は約 3 時間、いろいろ講演していただいてありがとうございます。そしてまた、皆さん久しぶりだと思いますが、この医科歯科大学に戻ってきていただいて本当にうれしく思います。実は私は多分 Chu 先生ぐらいからの卒業に関して、ちょうど歯学科の教育委員長をもう 10 年以上やっているのですが、皆さんが、ちょうど今ごろ、卒業の判定のときに私がかかわって、Chu 先生と Zanjebil 先生かな、やりましたね。覚えていますよ。皆さん、よく頑張りましたよね。

それで、今日講演していただいて、いろいろ皆さんも思っていることはあると思いますが、やはり一番大事なのは、皆さんがこうやって医科歯科大学で勉強して、ご自分の国に帰って、またご自分の国で一生懸命頑張って立派な歯医者になって、いろいろ立場はありますが、頑張っていただいているということが、私たちにとって非常にうれしい。また今

後、医科歯科の学生さん、あるいは医科歯科大学と皆さんの個人的あるいは大学あるいはマレーシア、そういうところともっと深く友好を深めて、いろいろなところで協力し合えれば一番いいなと思います。なかなかいつも会えることはないと思いますが、今後とも医科歯科大学のことを忘れないで、国に帰って頑張ってほしいと思います。

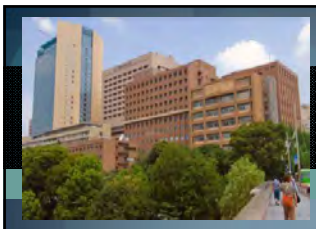
また、今日ご参集された先生方も本当にお疲れさまでした。今後とも、今、歯学部長、それから川口先生、森尾先生、ずっと言われていますが、医科歯科大学も今まで以上に国際交流や国際関係についていろいろ努力して、医科歯科大学をもう少し国際的に、特に歯学部を国際的にもっともっと広めていこうと。それから学生さんを海外に送り込んで、早いうちから海外のことに目を向けてもらうということに努力することになっておりますので、またそういう点、特にここにマレーシア以外の留学生の人もいると思いますが、ぜひそのときには協力していただきたいと思います。

また、マレーシアの先生も、医科歯科の学生にチャンスがあれば行ってもらいますので、そのときはぜひ今度はマレーシアの方でサポートしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、これをもちまして本日の国際シンポジウム「国際医療人の育成を目指して～元学部留学生による歯学教育の国際評価～」を終了させていただきます。本日はありがとうございました（拍手）。

（森尾）　では、皆さん、ありがとうございました。以上で終了となります。

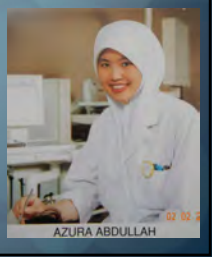
注：講演は主に日本語で行われましたが、一部、英語での発表もありました。
　　英語についてはワーキンググループで日本語に翻訳しました。



国立大学法人
東京医科歯科大学
Tokyo Medical and Dental University

TMDU & MY LIFE

By DR AZURA ABDULLAH(アズラ　アブドウラ)
D.D.S. (２００１年卒)



INTRODUCTION

MALAYSIA

Places of Interest in Malaysia

Myself

- Married with 5 children (3 boys aged 12, 10 & 7 and 2 girls aged 5 & 3)
- Graduated from TMDU year 2001
- Dentist at Ministry of Health Malaysia (12 years service)
- Currently pursuing Master in Public Health (Oral Health) Year 4 at University of Malaya

ORAL HEALTH PROGRAMME MINISTRY OF HEALTH

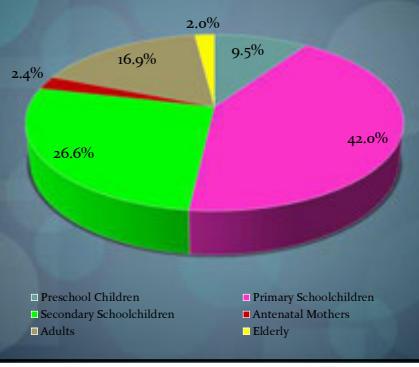
Dentist Population Ratio

- Comparison dentist population ratio with other country
  - **Malaysia 1:7936 (2009) (1858: Public, 1709: Private)**
  - Thailand 1 :7 811 (2004)
  - Australia 1:2 242 (2007)
  - UK 1:1 976 (2008)
- WHO recommended 1:1000 for ideal ratio.
- Oral Health Division Ministry of Health Malaysia, projected target of 1 dentist for every 4,000 population by 2020.

Dental Specialists in Ministry of Health (2005-2010)

Discipline / Year	Oral Surgery	Orthodontics	Periodontics	Pediatrics Dentistry	Oral Pathology/ Oral Medicine	Restorative Dentistry	Dental Public Health	Forensic Dentistry	Total
2005	34	28	12	16	4	3	108	-	205
2006	36	26	17	20	6	9	111	-	225
2007	42	31	19	21	6	10	115	-	244
2008	45	30	18	23	6	15	118	-	255
2009	48	33	19	25	8	15	127	1	276
2010	53	36	21	30	9	16	125	1	291

Primary Oral Healthcare 2010



Water fluoridation in Malaysia

- Since 1972 , fluoridation of public water supplies covered 76.0% of the population with an optimum level at 0.4-0.6ppm.
- In 2010, 281 out of 458 (61.1%) water treatment plants were installed with fluoride feeders.

DMFT index of 12-year-olds schoolchildren

Country	Year	Mean DMFT
Malaysia	2007	1.1
New Zealand*	2007	1.1
Japan*	2005	1.7
Germany*	2005	0.7
Singapore*	2002	1.0

** WHO Oral Health Country/Area Profile Programme. WHO Headquarters Geneva, Oral Health Programme (NPH)/WHO Collaborating Centre, Malmo University, Sweden*

Caries Prevalence & Caries Experience (DMFT)

Age (years)	Year	Caries Prevalence (%)	Caries Experience (Mean DMFT)
6	2007*	74.5	0.14
12	2007*	41.5	1.12
16	2007*	59.6	2.12
15-19	2000**	70.5	2.9
35-44	2000**	96.1	12.1
65-74	2000**	95.2	23.2

**OHD, MOH, Malaysia. National Oral Health Survey of schoolchildren 2007 (NOHSS 2007): 12-year-olds.2010*
***OHD, MOH, Malaysia. National Oral Health Survey of adults 2000 (NOHSA 2000), 2000. MOH/K/GIG13.2004 (RR), November 2004*

Oral Health Division, Ministry of Health Malaysia

http://ohd.moh.gov.my/v3/index.php/en/

MY LIFE PRE-TMDU

AMBANG ASUHAN JEPUN (日本留学特別コース) @ University of Malaya (1993-1995)

A JOURNEY TO TMDU

Departure to Narita Airport (26.3.1995)

MY LIFE AT TMDU

Visits to Prof Masuda's House

My life at International House/ Student House @ Kounodai Campus

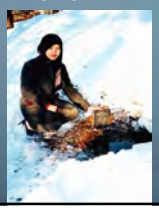
Group 1

My Life at the Yushima Campus

Got married - 1999

First baby Intra-Uterus-Death (IUD) (子宮内胎児死亡)

- 21.4.2000 - 国府台国立病院
- 31 weeks (8 months) pregnancy- Boy, only 637 gram
- Blood investigation/bone marrow done @ TMDU Essential Thrombocytosis (本態性血小板血症)
- 山梨県塩山ウシオク5013イスラム霊園



合宿研修 - 25-26.11.1999

飲み会

東京医科歯科大学留学生卒業式- 15.3.2001

Graduation day (卒業式) 23.3.2001

Graduation day (卒業式) 23.3.2001

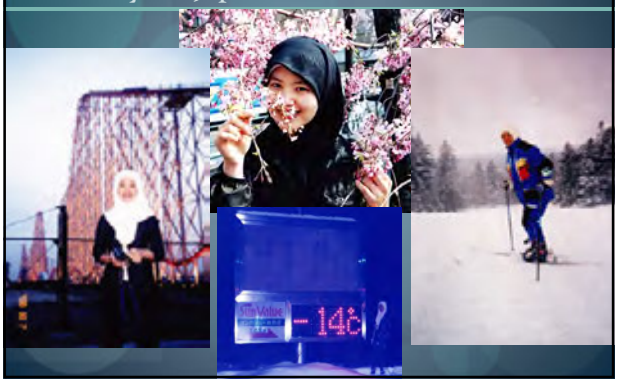
Graduation day (卒業式) 23.3.2001

東京医科歯科大学歯学部歯学科 第４９期生謝恩会- 23.3.2001

Friends

Friends

Holidays in Japan



Departure back to Malaysia 25.3.2001

MALAYSIAN ALUMNI

Malaysian Dentists- Made in TMDU

GRADUATION ALBUM 2001

Album's content

東京医科歯科大学2001年卒業（学４９）第１回同窓会@ガーデンパレス- 22.10.2011

東京医科歯科大学２００１年卒業（学４９）第２回同窓会@ガーデンパレス- 10.2.2013

MY LIFE POST TMDU

First Year Working Experience as a dentist

- First Year Dental Officer (FYDO) in MOH, Malaysia
  - 2 months attachment with
    - Periodontist
    - Orthodontist
    - Primary Care
  - 4 months attachment with Oral Surgery
  - 2 months attachment with Paediactric Dental Surgery
  - Requirement to fill up the FYDO logbook completely and certified by field supervisors/specialists/HODs each department
- Compulsory service of 3 years with MOH
- Difficulties
  - Language barrier
  - Handling dental emergency cases during on calls
  - Providing amalgam restoration
  - Tooth extraction esp ID Block and difficult extraction

Working experience with MOH

- FYDO : 2001-2002
- Dental officer at Primary Care Clinic : 2002-2005
- Dental officer at Pediatric Dental Clinic: 2005-2007
- Dental officer at Primary Care Clinic : 2007-2009
- Pursuing postgraduate programme in Master in Public Health at University of Malaya : 2009-current
- On-calls duty from year 2001-2009

Arising Issues

- Starting with Husna Hassan (graduated year 2009)
  - 1 year Pre-FYDO and then 1 year FYDO.
    - Insufficient clinical exposure in handling patients
    - During Pre-FYDO:
      - Similar to final year undergraduate programme (clinical) at local university- with requirements to be fulfilled
      - 2 months attachment with Periodontist
      - 2 months attachment with Oral Surgery & 1 week on-call tagging
      - 8 months attachment with Primary Care
    - 3 years compulsory service starts from FYDO after finishing pre-FYDO

Review & Thoughts for improvement

1. Clinical exposure- too short only 1 year during the final year of dentistry. Compared to Malaysia – start seeing patients from 3rd year
   → more clinical exposure to real patients under supervision
2. Insufficient exposure of dental emergency cases
   → need to have hands-on on toilet and suturing and management of dental emergencies
3. Inexperienced in handling out-patient day- in diagnostic procedure and treatment plan
   → More exposure to the triage/diagnostic department in management to out-patient clinic

Review & Thoughts for improvement

4. Not much experience in tooth extraction especially using ID block, only did mobile tooth extraction
   → More tooth extraction cases need to be seen
5. Unavailability of dental material - amalgam
   → In Malaysia, restoration using dental amalgam still in practice for posterior tooth. Perhaps availability of dental amalgam would help students to practice dental amalgam even though not on patients

A JOURNEY OF MPH LIFE

Master in Public Health (Oral Health) @ University of Malaya

- 4 years programme
  - 1st year and 2nd year:
    - Social and Preventive Medicine classes – Biostatistics, Health Economics, Health Policy and Leadership, Law and Health, Analysis of Rates and Proportion, Human Resource, Health Management
    - Dental Classes: Oral Health Promotion, Dental Ethics, Critical Appraisal, Administration in Dental Public Health, Epidemiology of Oral Diseases, Preventive, Primary Health Care, Behavioral Science
    - Research & Thesis – Final exam & VIVAE-VOCE
  - 3rd year: Attachment at various government and non-governmental agencies – Attachment report
  - 4th year: Attachment at State and District level in MOH and develop Community Project Proposal – VIVAE-VOCE

8th May 2010 - Br-unch with Prof Yoko Kawaguchi

25th IADR-SEA Scientific Conference Singapore 29-30th October 2011

Thoughts of appreciation

- Special thanks to
  - All TMDU lecturers and assistants and also supporting staff
  - Friends and colleagues from graduate year 2001

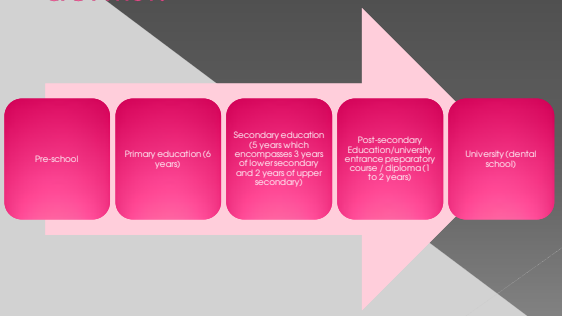
Nosizana Mohd Salleh

- DDS (2002), PhD (2006)
- 2006 –Lecturer (Dept of Prosthetic Dentisty, University of Malaya)
- Research field: Implant, Masticatory performance, TMD, Geriatric Dentistry
- 2011 – Visiting Consultant at KPJ (Cosmetic Dentistry)

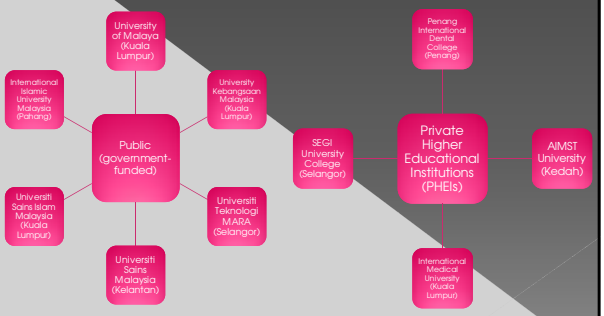
Education system in Malaysia

Dr Nosizana Mohd Salleh
DDS, PhD (TMDU,Japan)

Before one can become a dentist!



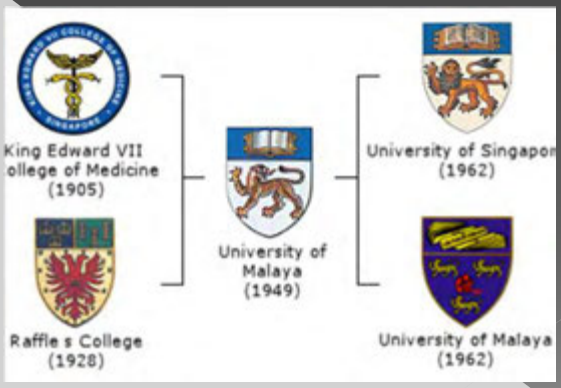
Dental schools in Malaysia



History of University Malaya

History of University Malaya

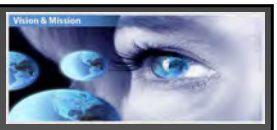
- Is the oldest university in Malaysia.
- University Malaya was established in April 1949 in Singapore with the merger of the King Edward VII College of Medicine (founded in 1905) and Raffles College (founded in 1928)
- Totally moved to Kuala Lumpur on 1st January 1962.
- First Chancellor was Tunku Abdul Rahman Putra Al-Haj, who was also Malaysia's first prime minister. The first Vice-Chancellor was Professor Oppenheim, a world-renowned Mathematician.
- Currently, His Royal Highness The Sultan of Perak Darul Ridzuan is the Chancellor of the University of Malaya.
- Ghauth Jasmon was appointed as the tenth Vice-Chancellor of University of Malaya on 8th November 2008 until today.



Faculty of Dentistry, UM

- The Faculty of Dentistry was set up in 1971.
- In December 1997, the Faculty received recognition for its high standard of teaching, research and professionalism when the General Dental Council of the United Kingdom gave its recognition to the University's Bachelor of Dental Surgery (BDS) degree. Margaret Seward, the president of the General Dental Council UK:

"this institution provided training of the highest standard, equal to that provided in the UK"



- **VISION**
  To be a centre of excellence in oral Health science, education and research and to function as a catalyst to promote learning and research in dentistry.
- **MISSION**
  To be a premier faculty in providing a high standard of training and research to produce caring dental professionals with holistic approach.

Faculty of Dentistry University of Malaya - facilities

Facilities

E learning – spectrum

Interactive Multimedia Contents development by Multimedia department is a free service provide to all academicians to convert their learning materials into interactive multimedia contents

Audio Video Digital Productions
- The services include webcasting, teleconferencing, UM.s official event and video lecture recording.

New BDS Curriculum in University of Malaysia (2010/2011)

- 5 years course
- Semester start from September
- Integrated curriculum
- General clinical practice (GCP)

Dental course timetable

Year 1	Year 2	Year 3
• Anatomy • Biochemistry • Oral Biology	• Pathology • Medical Microbiology • Pharmacology • Community Dentistry • Oral surgery, radiology & Maxillofacial	• Oral disease • Conservative Dentistry • Prosthetic Dentistry • Community Dentistry • Oral Medicine & Periodontology • Peadiatric Dentistry & orthodontic • General Dental Practice (Oral diagnosis)

General Clinical Practice (GCP)

- Involving year 3 student only at this moment, year 4 & 5 still following the old curriculum.
- 5-6 sessions per week. 1 lecturer from each department (cons, prosthetic, perio, commdent & GDP).
- Lecturer must have a knowledge to supervise GCP clinic. Faculty is continuously train the staff.

Dental course timetable

Year 4	Year 5
• Oral surgery, radiology & Maxilofacial • Oral Medicine & Periodontology • Conservative Dentistry • Prosthetic Dentistry • Community Dentistry • Peadiatric Dentistry & Orthodontic • General Dental Practice • Elective Project	• Oral surgery, radiology & Maxilofacial • Conservative Dentistry • General Dental Practice • Peadiatric Dentistry & Orthodontic • Prosthetic Dentistry • Community Dentistry • Elective Project

Methods of evaluating student performance

- Professional exams will be conducted at the end of every academic year.

Component 1 (40%) : cont. ass. Student must obtain at least 30% marks in each subject before they can sit the final exam.

Component 2 (60%) : Final exam

Paper 1 MCQ (Multiple Choice Questions)
Paper 2 MEQ (Modified Essay Questions)
Paper 3 SAQ (Short Answer Questions)
Paper 4 OSPE/OSCE (Objective Structured Practical/ Clinical Examination)

- Students who score 70 and above will be invited to sit for a viva-voce conducted by committee appointed by the Faculty.

If the committee is satisfied with the achievements of the student, her grade can be increased to A+.

- Students who score 45-49 also need to sit for a viva-voce. If they did well their mark can be increased to 50.

Marking scheme

Mark	Grade
70 – 100	A
65 – 69	B+
60 – 65	B
55 – 59	C+
50 – 54	C
45 – 49	D
30 – 44	E
0 – 29	F

Examinations for Bachelor of Dental Surgery (BDS)

- First professional exam
- Second professional exam
- Third professional exam
- Final professional exam part I
- Final professional exam part II

External examiners system

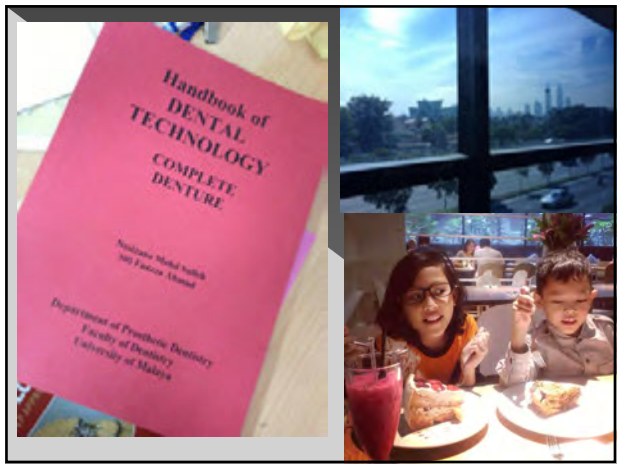
Dental student activities

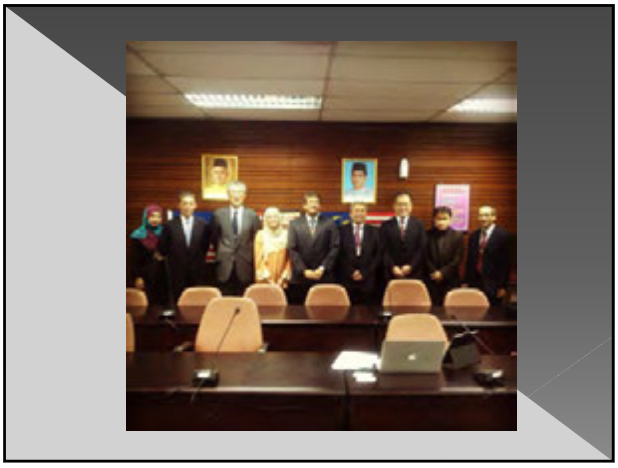
Dental Night Dinner – annual event

Student scientific conference

Dental check up/ Bakti siswa

Posting


Handbook of
DENTAL
TECHNOLOGY
COMPLETE
DENTURE



US

Postgraduate Study : A Comparison

Dr Lily Azura Shoaib
Department of Childrens Dentistry & Orthodontics Department

UNIVERSITY OF MALAYA

Lily Azura Shoaib

DDS (Tokyo) - 2001,

Dental Officer , Ministry of Health Malaysia, Dental Division – (2001 – August 2005)

Tutor – Faculty of Dentistry , University of Malaya (2005)

Master in Clinical Dentistry , Pediatric Dentistry (Edinburgh) 2008

Lecturer (Children Dentistry & Orthodontic Department, University of Malaya)

Research field: Cariology, Management of Children with Special Needs, Dental Education etc.

http://dentistry.um.edu.my/index.php

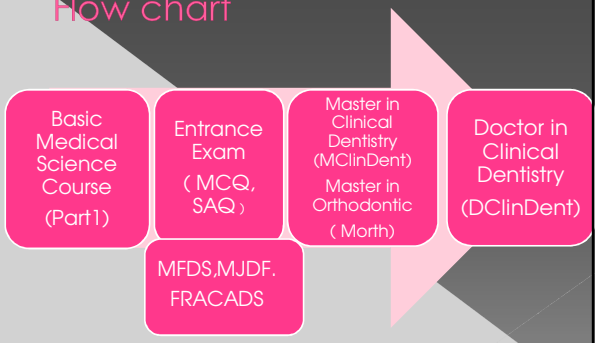
Postgraduate Study in Faculty of Dentistry,UM

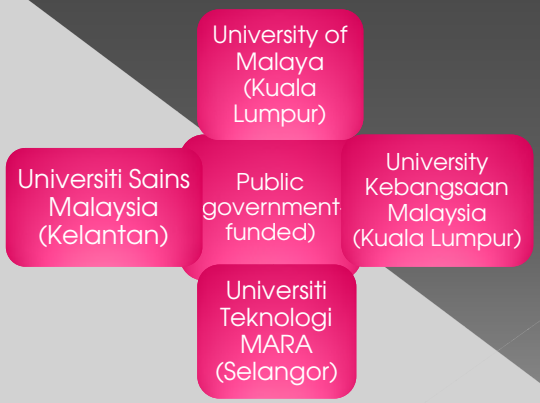
- The Faculty of Dentistry offers various postgraduate program to both local and international candidates.
- It covers a range of dental disciplines and are conducted through coursework, clinical coursework or research.
- Clinical postgraduate program are designed to train dentists to become a specialist in Malaysia.

Chronology

- 1994 • Master in Community Dentistry
- 1999 • Master in Clinical Dentistry
- 2000 • Master of Orthodontics and Master of Dental Surgery in 2000.

Flow chart





Accreditation

- Royal College of Surgeon England (Morth, MClinDent(Paed)
- The Royal Australasian College of Dental Surgeons

Postgraduate Curriculum

- Year 1 – Biostatistic, pre-clinical exposure, operative technique,
- Year 2 – Clinical /research
- Year 3 – Clinical /research
- Year 4 – Local and overseas posting/attachment– Pediatric Dentistry, Oral surgery, Orthodontic
- Consist of >60% clinical, 40%research

Admission requirements

- Bachelor's Degree in Dentistry or Medicine or its equivalent, or a Bachelor's Degree with Honours(CGPA>3) in any Science discipline for Master by research programme
- Bachelor's and Master's Degree in Dentistry or Medicine from recognised universities which is approved by the Senate for PhD programme
- TOEFL with a minimum score of 550 / IELTS with a minimum band 6.0 for all international applications are required with the exception for those who did their tertiary education in English.

Dental Specialist in Malaysia.

- Possess a basic dental degree recognized by the Malaysian Dental Council
- Has been fully registered with the Malaysian Dental Council and holds a current Annual Practicing Certificate
- possess postgraduate qualification in recognized by the Malaysian Dental Council

Dental faculty Research Center

- Oral Cancer Research & Coordinating Centre (OCRCC) for Oral Cancer Research Group,
- Regenerative Dentistry Research Group (ReDReG),
- Clinical Craniofacial Dentistry Research Group (CCDRG), Oral and Craniofacial Biology Research Group (OCBRG),
- Biomaterials Technology Research Groups (BTRG),
- Community Oral Health Research Group (COHRG)
- Dental Education Research Group (DERG)

Collaborators

- Oral Health Department, Ministry of Health
- Cancer Research Initiatives Foundation (CARIF)
- Centre of Immunology and Cancer Research (CICR), University of Queensland, Australia
- Universiti Teknologi Mara (UiTM)
- Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)
- Trisakti University, Indonesia
- Universiti Sains Malaysia (USM)
- Kaohsiung Medical University, Taiwan
- University of Otago, New Zealand
- International Medical University (IMU)

Facility at Postgraduate Center

Research Laboratories

- **Craniofacial & Molecular Biology Research Laboratory (CMBRL)**
- **Biomaterials Research Laboratory (BMRL)**
- **Oral Pathology Diagnostic & Research Laboratory (OPDRL)**
- **Balai Ungku Aziz Research Laboratory (BUA LAB)**

Research Lab

Community Research Group

UM Dental Faculty - Macro Photography Lecture

14 Home

THE SUN 4-9-98

UM dentistry course matches British standard

Kuala Lumpur, Thurs: Universities should review their programmes and teaching methodology to improve the quality of the graduates they produce.

They should ensure that their programmes are constantly updated to meet the changing needs of the fields and the market.

This will also enhance the marketability of their graduates, Education Minister Datuk Seri Najib Abdul Razak said today.

He cited Universiti Malaya's (UM's) Dentistry Faculty as a good example of how this was achieved.

Najib commended the faculty for providing dental education to a standard endorsed by the General Dental Council to be comparable to those offered by dental schools from Britain.

The faculty, noted Najib, had redesigned the course from a traditional 4-year programme to a contemporary 5-year one with the introduction of new units, such as general dental practice and behavioural science.

The changes are to better prepare graduates to the realities of practice.

Najib said this in his speech at a ceremony at UM to commemorate the recognition of its bachelor of dental Surgery degree by the General Dental Council of Britain.

The speech was read by his deputy Datuk Dr Fong Chan Onn.

The Council is a statutory body which governs and regulates the practice of dentistry in Britain. It traditionally conducts visitations to accredit foreign dental schools.

Its recognition permits graduates to enter Britain's Dental Register.

Malaysia is one of only three Asian countries (the others are Hongkong and Singapore) to have a dental school so recognised.

Council president Dr Margaret Seward said: "Our visitors reported back last year that your dental school delivers the highest standard of dental education to match any in the world. They were also very impressed with the strong leadership, vibrant staff morale and excellent staff-student relations."

Dental Faculty Journal- Annals of Dentistry

UM Graduates & Teaching Stafffs

Edinburgh Dental Institute

- Part of the University's College of Medicine and Veterinary Medicine, University of Edinburgh, Scotland.

Program

- The 2 year full time degree is approved as part of the training program in pediatric dentistry by the SAC (Specialist Advisory Committee) in Pediatric Dentistry for those in possession of a training number awarded by the Postgraduate Dental Dean for Scotland.

Entry requirements

- A Bachelor of Dental Surgery degree or equivalent primary dental qualification is required.
- Minimum of 2 years' postgraduate experience.
- Attainment of the University of Edinburgh language requirements.
- This program is designed to provide education, clinical training and research experience in the discipline of pediatric dentistry.

Masters in Clinical Dentistry(Edinburgh)

- The degree course commences with an introductory program of lectures, seminars and rehearsal
- procedures in the clinical skills laboratoryclinical care of patients, seminars, journal clubs and trauma discussion groups.
- A supervised research dissertation

日本 (TMDU)で
学んだこと

上を向いて歩こう

負けず嫌い

頑張れば絶対に乗り越えられる

TMDU 東京医科歯科大学

東京医科歯科大学を卒業しました！

日本の歯科大学を出て、
マレーシアで働く経験
by

ハスリナ
歯学部歯学科 （事務処理番号1175）
1997年～2003年

その時の東京医科歯科大学

- 教養部 （国府台） 約2年 （College of liberal arts and sciences -2 years)
  数学、物理、化学、生物、語学等
- 学部(湯島) 約4年 （Yushima campus 4 years)
  - 9時～5時の授業･実習 9-5 classess/ labs
  - 臨床は最後の1年のみ Final year-clinical
  - OSCE
  - 国家試験 National exam

医学科の学生と
With Medical Students

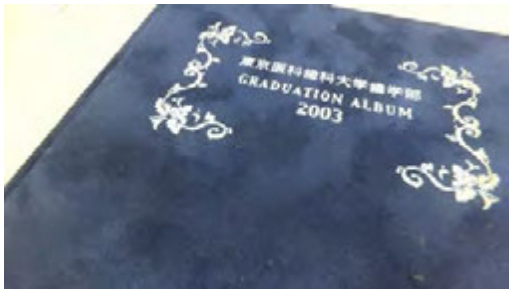
山下先生の解剖学
Prof Yamashita's Anatomy class

RF充填の実習
Simulation lab

学外活動
Extra-curricular activity

D6って、楽しい！
Clinical Year Was Fun!

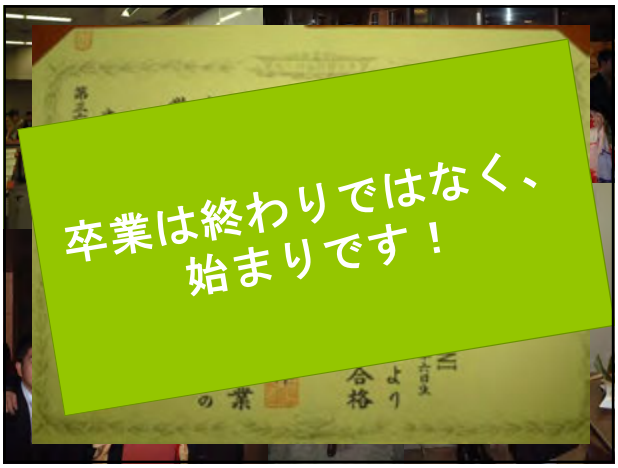
苦手な技工
I hate lab work



D6　平成15年 (2003)

先生方、有難うございました
Thank you, Senseis

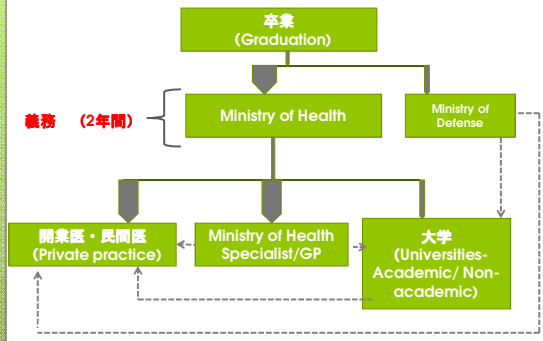
先生方、有難うございました
Thank you, Senseis



東京医科歯科大学を卒業しました。その後

I graduated from TMDU..
Next…

マレーシア歯科医キャリア・パスウエー



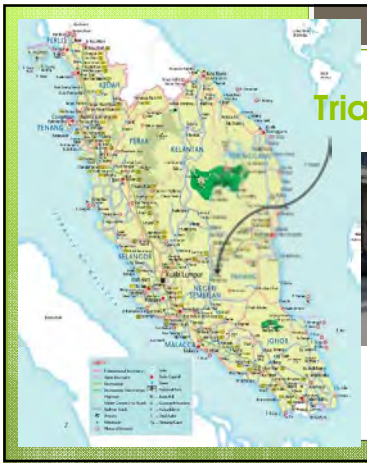
Ministry of Health Malaysia

2003年～2009年

Ministry of Health Malaysia

- 2003年6月～2007年5月
  - 専門医の下で1年間修行ーFirst year: Training under specialists
  - 2年目以降は一般歯科医　2nd year onwards: GDP
    - 田舎 Rural area
  - 最初の1年は涙の1年でした。First year was full of suffering
- 2007年5月～2009年4月
  - Oral Health Division
  - Senior Assistant Director
  - デスクワーク
    - 人事　(Manpower planning/ management)

Triang , Pahang



Triang Dental Clinic
臨床歯科医＋院長
CARTA ORGANISASI KLINIK PERGIGIAN TRIANG
PEGAWAI PERGIGIAN Y/M
JURUTEKNIK PERGIGIAN U9
PEMBANTU PEMBEDAHAN PERGIGIAN U14
ATTENDAN PERGIGIAN U10
PEMANDU PERGIGIAN

日本と違うところ一多民族国家の言語問題
Language barrier

Triang Dental Clinic
臨床歯科医＋院長

Community Service

Quality Improvement Initiative Activities
2006パハン州大会で優勝 Pahang state champion

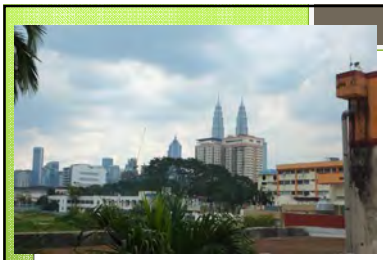
- Oral Health Division, Ministry of Health Malaysia, Putrajaya　（2年間）
  - http://ohd.moh.gov.my/
- 人事　（Manpower planning/ management）

Universiti Kebangsaan Malaysia

2009年～

Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)
The National University of Malaysia
マレーシア国立大学

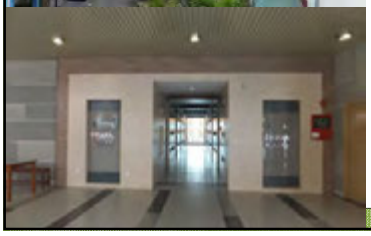
- 学部・大学院 Undergrad & Postgrad
- ５年制 Undergrad 5 year programme
- ３年生から臨床 Clinical from year 3
- 教養部はないが、英語や倫理なども１年生のときに習う No College of liberal arts and sciences but they have to learn English , moral etc in first year.
- 過半数は女性　（~80%）　Majority are female students



- UKMから見る KLCC

- 近くから見る KLCC

- UKM歯学部
- Faculty of Dentistry UKM



- 講義室（共有）
- Common lecture halls (shared with Faculty of Allied health sciences)

- 実習室 Simulation lab

- 学生クリニック Student clinic

- 予防歯科分野クリニック Department of Dental Public Health Clinic

2011年10月～

- 東京医科歯科大学健康推進歯学分野　TMDU, OHP
- .卒業したらUKMに戻りますAfter Ph.D , back to UKM
- 10年経って変わらなかったことThings that stayed the same after 10 years.
  - 時間厳守 Punctuality
  - 残業（職員）(overtime-staff)
  - 講義室 (class rooms)
- 10年経って変わったこと
  - 人 (people)
  - MDタワー (MD tower)
  - 学部の教育 (Undergrad education system)
  - 研修医制度 (Housemanship system)

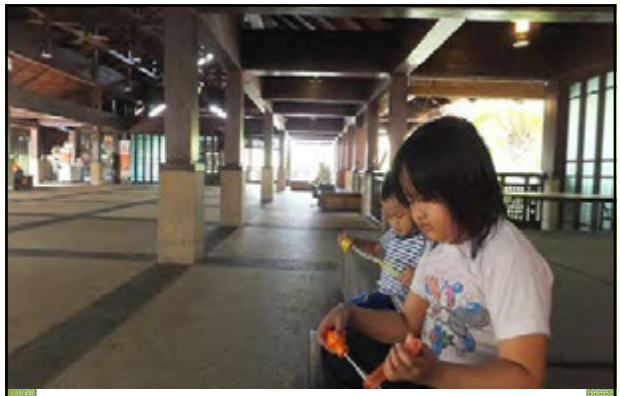
東京医科歯科大学の良かったところ
The Good Things

- 友達 Friends
  - チームワークTeam spirit
- 先生方Lecturers
  - 比率Lecturer/Tutor to students ratio
  - よく手伝ってくれたVery helpful
  - 技能がいいBest skills
- 場所Location
- 日本人の道徳Japanese virtues
  - 尊敬Respect
  - 謙虚Humility
  - リソース管理 Resource(s) management: time, space, money

Ideas for Improvement

- 教養部の期間を短くShorten length spent at College of Liberal Arts and Sciences
- 臨床ケースを多くIncrease clinical cases exposure
- 学生の自信がUp出来るプログラムConfidence building
- 外国の歯科大生との交流Exchange Programme
- 英語力Up Strengthen command of English

- どこに行っても、何にでも対応できるような歯医者を育ててほしい　Raise dentists who are flexible to changes, able to adapt and perform anywhere they go



この3名のため、頑張ります

Gong Xi Fa Cai !

"Dr Chu Wai Weng"
（２００４年卒）

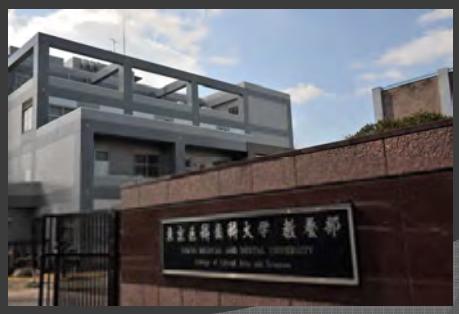
LIFE AFTER TMDU

St. Michael's Institution, Ipoh.

日本での教育の省略

- １９９７年４月に来日し、東京外国語大学留学生日本語教育センターに入学。

- １９９８年に東京医科歯科大学の歯学部に入学



•2004年に卒業して、マレーシアへ帰りました。

試験対策～

マレーシアで初めて歯医者になりました。

- マレーシアに帰って、すぐMalaysian Dental Councilに登録して、正式に歯医者になりました。
- ３年間政府との義務サービスする必要があります。最近これが２年間になりました。
-
- その後、そのまま政府と働き続けるか、自分で開業するか、自由に選択できます。

マレーシアで新しく登録する歯科医

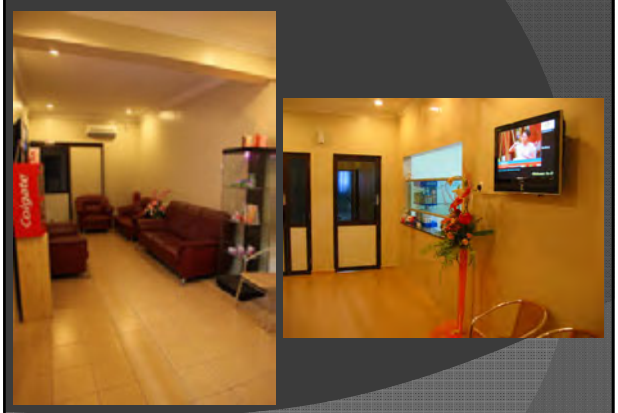
Section \ Year	2006	2007	2008	2009	2010	2011
12(1)	217	223	252	227	320	409
12(3)	5	1	1	2	1	1
12(9)	1	3	10	2	0	5
Total	223	227	263	231	321	415

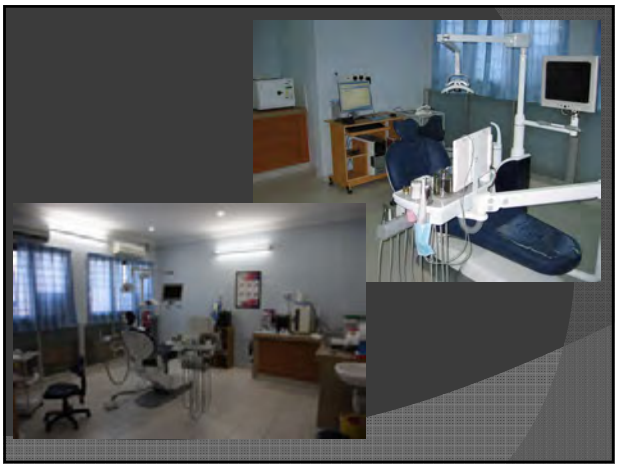
- 12(1): 認定されている大学卒
- 12(3): 認定されていない大学卒
- 12(9): インドネシア、日本、台湾、タイ、ロシアなどの認定されている大学卒

マレーシアで毎年に出しているAPC

Sector	2006	2007	2008	2009	2010	2011
Public	1,368	1,540	1,692	1,858	2,055	2,452
Private (Div I)	1,572	1,625	1,673	1,709	1,755	1,801
Total (Div I)	2,940	3,165	3,365	3,587	3,810	4,253
Private (Div II)	58	49	45	39	37	36
Total	2, 988	3,214	3,410	3,606	3,847	4,289

治療料金ガイドライン





ありがとうございました～。

A Journey of Two Worlds : From a Dental Student in Japan to a Dental Surgeon in Malaysia – An Overview

By :
DR ZANJEBIL ALSAGOFF
TMDU 2005

1

2

新入生校外オリエンテーション

3

The Challenges

- Living alone in a foreign land
- Language
- Culture

4

同級生の留学生

5

The Advantages

- Good peer support
- Textbooks used from local authors

Clinical Year

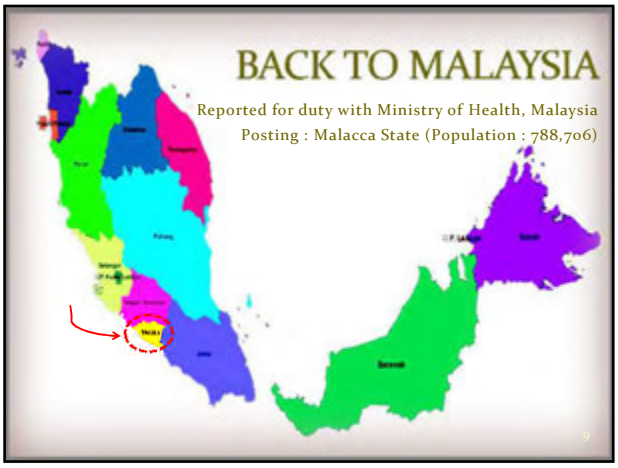
- Pros:
  - Small group, lecturers can focus more
  - Holistic approach
  - Two-handed dentistry
- Cons:
  - Difficulty in getting patients
  - Number of cases

7

8

BACK TO MALAYSIA

Reported for duty with Ministry of Health, Malaysia
Posting : Malacca State (Population : 788,706)



9

FIRST YEAR DENTAL OFFICER (FYDO) PROGRAM

Oral Surgery	Orthodontic	Periodontic	Restorative Dentistry	General Practice
4 months	2 months	1 month	2 months	2 months

*12 First Year Dental Officers

Number of Specialists in Malacca State

Oral Surgery	Orthodontic	Periodontic	Restorative Dentistry	Pediatric Dentistry
1	2	1	1	1 *2007

As of year 2005

10

The Challenges

- Language (Scientific terms)
- Culture shock!
  - Lack of exposure to certain cases
  - No experience handling on-calls
  - Patients' level of awareness
  - Use of amalgam!

11

nur

Edition October 2005

Intermission

12

RURAL POSTING

- Jasin District (Population 128,003)
  - 1 Main Dental Clinic
  - 3Dental Clinics
  - 1 District Hospital
- Merlimau Dental Clinic
  - 2 Dental Officers
  - 1 Matron
  - 5 Dental Nurses
  - 1 Driver
  - 4 Dental Surgeon Assistant
  - 4 Attendant

14

Example of Daily Schedule at Merlimau Dental Clinic

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
a.m.	Outpatient	School Service	Outpatient	School Service	Appointment
			LUNCH BREAK		
p.m.	Outpatient	Appointment	Outpatient /Cover Clinic	Appointment	Meeting

15

School Dental Service

Usual layout of the 'makeshift clinic' for students to receive dental check up and treatment.

16

School Dental Service

- Dilemma within
  - Equipments (lighting, treatment chair, sterilizing facilities)
  - Time constraint :

Merlimau Dental Clinic is responsible for 3 high schools each with about 1000 students

20% : No treatment needed

60% : Scaling needed

20% : Treatment only or with scaling

17

Community Projects

Oral Cancer Screening is usually held annually

It has been noted that oral lesions occur predominantly among identified communities

18

Community Projects

Other community projects :

- Health Week at Simpang Bekoh Health Centre
- Health Week at Police Housing
- Health Week at Down Syndrome Care Centre
- Health Week at orphanage

Activities :

- Dental Talk
- Tooth Brushing Demo
- Dental Screening
- Information Booth

19

PAEDIATRIC DENTAL CLINIC

- 1 Pediatric Dental Specialist
- 1 Dental Officer

- CASES
  - Trauma cases
  - Oral surgery cases
  - Oral pathology cases
  - Dental anomalies
  - Dental and oral treatment of children with systemic disease
  - Dental and oral treatment for special children with a physical / mental disability
  - Handling children who need dental treatment with general anesthesia
  - Orthodontic cases

20

ORAL HEALTH DIVISION

❖ **OBJECTIVE OF THE ORAL HEALTH DIVISION**

To improve the oral health status of the population through the provision of preventive, promotive, curative and rehabilitative dental services, with special emphasis given to identified priority groups in such a way that the oral health status of the nation will continually be in conformity with the socio-economic progress of the country.

❖ **ROLE OF THE ORAL HEALTH DIVISION**

- Formulation and development of policies related to the oral health of the population
- Management of oral health which includes planning, organizing, monitoring and evaluation of oral healthcare
- Promotion of oral health to ensure continual improvement of the oral health population
- Enactment and enforcement of laws and regulations pertaining to the practice of dentistry

21

- ORAL HEALTH DEVELOPMENT
  1. Epidemiology and Research
  2. Career Development
  3. Development and Management of Oral Health Facilities
  4. Oral Health Technology
  5. Practice of Dental Professionals & Auxiliaries
  6. Accreditation and Globalisation
  7. Information Management
- ORAL HEALTH REGULATION AND PRACTICE
  1. Oral Health Promotion
  2. Primary Oral Healthcare
  3. Specialist Oral Healthcare
  4. Community Oral Healthcare
  5. Law and Acts
  6. Oral Healthcare Quality

22

Dental Specialists in Malaysia

Ministry of Health

Oral Surgery	Orthodontic	Periodontic	Pediatric Dentistry	Oral Pathology/ Oral Medicine	Restorative Dentistry	Total Clinical Specialists	Dental Public Health
52	37	21	28	9	16	163	129

*As of December 2010

23

Programs

AREA OF FOCUS	THEMES
1. Oral health of young children	▪ Never too early to start ▪ Healthy teeth healthy growth ▪ Miles of smiles
2. Reduce sugar intake	▪ Healthy eating healthy teeth ▪ Oral health and diabetes
3. Adult oral health - preventive dental visits	▪ A visit in time saves teeth, tone/32 ▪ Good oral health is the responsibility of everyone ▪ Oral wellness for general wellness ▪ Mouth what, teeth what ▪ Prevention brings lasting satisfaction
4. Improving periodontal health (adults, adolescents)	▪ Floss away bleeding gums and gum disease ▪ Gum disease, Floss, No Loss
5. Early detection of oral lesions	▪ Make mouth self-examination (MSE) a way of life
6. Improving oral health of older adults	▪ Never too late to begin ▪ Better late than never ▪ Oral wellness is the gateway to good general health ▪ Oral wellness: Gateway to wellness
7. Reduce/ prevent dental injuries and maxillofacial trauma	▪ Safety...Do it. Do it right. Do it right now. ▪ Keep safety in mind. It will save your smile ▪ Protect your teeth at all times ▪ Take time out for safety ▪ Dare to be aware ▪ Don't be a fool, cause safety is cool, so make that your rule ▪ Ignoring a warning can cause mouth mourning ▪ It hurts to be unsafe

24

Guidelines

No.	Guideline Title
1.	Management of Hypodontia
2.	Management of Chronic Periodontitis
3.	Management of Chronic Periodontitis Abscess
4.	Management of Severe Early Childhood Caries (2nd Edition)
5.	Management of Avulsed Permanent Anterior Teeth in Children (2nd Edition)
6.	Management of Ameloblastoma of the Jaw
7.	Antibiotic Prophylaxis against Wound Infection for Oral Surgical Procedures (2nd Edition)
8.	Management of Unerupted Maxillary Incisor
9.	Management of Unilateral Condylar Fracture of the Mandible
10.	Management of Chronic Periodontitis
11.	Management of Unerupted and Impacted Third Molar Tooth
12.	Management of Severe Early Childhood Caries
13.	Management of the Palatally Ectopic Canine
14.	Antibiotic Prophylaxis against Wound Infection for Oral Surgical Procedures
15.	Management of Anterior Crossbite in the Mixed Dentition
16.	Treatment of Periodontal Abscess
17.	Management of Avulsed Permanent Anterior Teeth in Children

25

DENTAL LECTURER, UKM

- Established in 1996
- Second dental school after University Malaya
- Five year program
- Awards degree of Doctor of Dental Surgery (DDS)
- Post graduate programs available:
  - Doctor of Clinical Dentistry in Orthodontics
  - Doctor of Clinical Dentistry in Pediatric Dentistry
  - Doctor of Clinical Dentistry in Restorative Dentistry
  - Doctor of Clinical Dentistry in Periodontology
- Plan to start PhD program in Dental Public Health and Oral Biology

26

27

Doctorate of Dental Surgery, UKM

- **PHASE ONE:**
  FUNDAMENTALS OF DENTISTRY
  - Basic medical and dental subjects
  - Year One : Anatomy, Biochemistry, Physiology, Oral Biology and Oral Health
  - Year Two : Pathology, Pharmacology and Microbiology. Basic dental subjects : Dental Materials and Technology, Oral Health and Simulation Operative Dentistry.

28

- **PHASE TWO:**
  CLINICAL DENTISTRY
  - From Year Three to Year Five
  - First 6 weeks, students will receive an introductory module to clinical dentistry
  - Fourhanded dentistry
  - In additional to the complementary educational activities such as didactic teaching, seminar, laboratory class work, tutorials, presentation of clinical cases and projects

29

SUMMARY

1. Longer clinical year – is it necessarily better?
2. Simultaneous vs. step-by-step
3. Patient vs. cases
4. Two-handed dentistry vs. Four-handed dentistry

30

Major Differences

TMDU	Malaysian University
1 year of clinical practice	3 years of clinical practice
Less clinical cases	More clinical cases
Two-handed dentistry	Four-handed dentistry
Step-by-step	Simultaneously
Tooth Colored Material	Amalgam usage

31

Other Little Things

- Hygiene
  - Uniform
  - Sink
  - Hand accessories
- Level of Awareness
- Equipments

32

What I do now ☺

Most of the time...

33

Freelance Dentist

Sometimes... ❤

34

References

1. Annual Report 2010, Oral Health Division, MOH Malaysia
2. Malaysian Dental Council's Annual Statistics, 2011
3. NUR, October 2005
4. Career Development Dental Officers in MOH, 2007
5. National Oral Health Plan for Malaysia 2011-2020
6. Oral Healthcare in Malaysia, 2008
7. Undergraduate Prospectus, Dental Faculty, UKM, 2009

35

36

5. 講師の経歴

CURRICULUM VITAE

DR AZURA BINTI ABDULLAH

PERSONAL DETAIL

Dental Officer at Ministry of Health, Malaysia

ACADEMIC QUALIFICATION

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2001)

Master in Public Health (Oral Health) Year 4, University of Malaya, Kuala Lumpur.

WORK EXPERIENCE

2001-2002: First Year Dental Officer (FYDO) in Klang

2002-2006: Dental Officer in Charge at Port Klang Dental Clinic

2006-2008: Dental Officer attached with Paediatric Dental Specialist at Hospital Tengku Ampuan Rahimah Klang (Klang General Hospital)

2008-2009: Dental Officer at Klang Main Dental Clinic

2009 – present: Dental Officer at Ministry of Health, Malaysia

CURRICULUM VITAE

Dr. Nosizana Binti Mohd Salleh

PERSONAL DETAIL

Dental Lecturer

Department of Prosthetic Dentistry, Faculty of Dentistry, University of Malaya

nosizana@um.edu.my

ACADEMIC QUALIFICATION

Tokyo Medical and Dental University, JAPAN (Lain-Lain Bidang Pergigian)

PhD, Prosthetics Dentistry, Tokyo Medical and Dental University

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2002)

CURRICULUM VITAE

Dr. Lily Azura Binti Shoaib

PRESENT OCCUPATION

Dental Lecturer

Department of Children's Dentistry and Orthodontics, Faculty of Dentistry, University of Malaya

E-mail: lilyazura@um.edu.my

ACADEMIC QUALIFICATION

National Specialist Registar, Registered Member, 2012 (National)

International Association of Paediatric Dentistry, Member, 2012-2012 (International)

Malaysian Dental Council, Member, 2001 (National)

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2001)

WORK EXPERIENCE

July 2001 – Jan 2004: Dental Officer, KLINIK PERGIGIAN TELOK WANJAH, ALOR SETAR

Feb 2004 – Dec 2004: Dental Officer, KLINIK PERGIGIAN HOSPITAL ALOR SETAR

Jan 2005 – Aug 2005: Dental Officer, KEMENTERIAN KEISHATAN MALAYSIA

Sep 2005 – Dec 2009: Pengajar Slab, UNIVERSITI MALAYA

Dec 2008 – present: Dental Lecturer, Universiti Malaya

CURRICULUM VITAE

DR HASLINA BINTI RANI

Graduate student
Department of Oral Health Promotion
Tokyo Medical and Dental University

Lecturer (on study leave)
Department of Dental Public Health
Faculty of Dentistry
The National University of Malaysia (UKM)

ACADEMIC QUALIFICATION

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2003)

WORK EXPERIENCE

June 2003-December 2003: Dental Officer at Oral and Maxillofacial Specialist Clinic, Hospital Tuanku Ampuan Afzan, Kuantan, Pahang (Ministry of Health Malaysia)

January 2004-June 2004: Dental officer at Mentakab Dental Clinic, Pahang (Ministry of Health Malaysia)

July 2004 – April 2007: Dental officer in charge of Triang Dental Clinic, Pahang (Ministry of Health Malaysia)

April 2007-May 2007: Dental officer at Banting Dental Clinic, Selangor (Ministry of Health Malaysia)

May 2007-April 2009: Senior assistant director at Oral Health Division, Ministry of Health Malaysia

April 2009 – present: Dental lecturer (trainee) at Faculty of Dentistry, The National University of Malaysia (Universiti Kebangsaan Malaysia- UKM)

CURRICULUM VITAE

DR CHU WAI WENG

PERSONAL DETAIL

Present Occupation: Dental Surgeon

Present Address: 11, JALAN TEOH KIM SWEE, TAMAN HILLVIEW,
31350 IPOH, MALAYSIA.

ACADEMIC QUALIFICATION

Graduated from 東京外国語大学留学生日本語教育センター(1998)

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2004)

WORK EXPERIENCE

2004 – 2006: dental surgeon, Malaysian Ministry of Health

2007- started my own dental practice in Ipoh

MEMBERSHIP

Malaysian Dental Association (MDA)

Committee member for 2 terms in MDA Northern Zone.

Local Continuing Professional Development (CPD) committee.

CURRICULUM VITAE

D R Z A N J E B I L A L S A G O F F

PERSONAL DETAIL

Full Name : Zanjebil Abdulkadir Alsagoff

Date of Birth : 31 December 1979

Place of Birth : New York , USA

Nationality : Malaysian

Present Occupation : Part time dentist at Mont Kiara Dental Specialist Clinic

ACADEMIC QUALIFICATION

DDS, Tokyo Medical and Dental University (2005)

WORK EXPERIENCE

First Year Dental Officer Programme (Compulsory in Malaysia)
June 2005 – Sept 2005: Oral Surgery Department, Malacca General Hospital
Oct 2005 – Nov 2005: Restorative Dentistry Department, Ayer Keroh Dental Clinic, Malacca
Dec 2005: Periodontic Clinic, Peringgit, Malacca
Jan 2006 – Feb 2006: Orthodontic ClinicTun Sri Lanang Dental Clinic, Malacca

March 2006 – June 2006: General Dental Practitioner at Tun Sri Lanang Dental Clinic, Malacca
July 2006 – Feb 2007: Merlimau Dental Clinic, Malacca
March 2007 – Dec 2007: Paediatric Dental Department, Malacca General Hospital
Jan 2008 – March 2009: Assistant Director of Oral Health, Oral Health Division, Ministry of Health Malaysia
July 2009 – August 2011: Dental Lecturer, Operative Department, Dental Faculty, National University Malaysia (UKM)
Sept 2011 – Dec 2011: Maternity leave
2006 – present: Part time dentist at Mont Kiara Dental Specialist Clinic

平成 25 年 6 月 21 日発行　東京医科歯科大学

大学の世界展開力強化事業運営委員会

「国際シンポジウムⅠ」ワーキンググループ

田上順次　川口陽子　森尾郁子

石田雄之　竹原祥子

福井雄二　關奈央子　後藤嘉信

山本哲也　柴田真希　杜曼君

〒113-8510　東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学 国際交流センター

「大学の世界展開力強化事業」運営委員会